# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | ふるさと兵庫こども環境体験推進事業 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 環境政策課 |
| | | 担当班 | 政策班（学習・活動担当） |
| | | 連絡先 | 078-362-3156 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 平成31年度 | 終了年度 | 令和９年度 | 関連計画等 | 新兵庫環境学習環境教育基本方針 |
| 事業区分 | ☐ 国補助事業　☑ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | ☐ 直執行　☐ 委託　☐ 補助　☑ その他（ 分任 ） | | | 実施主体等 | 県 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 新兵庫環境学習環境教育基本方針（H28～R7)に基づき、ライフステージに応じた環境学習・教育の推進及びSDGsを実現するため、県内全ての乳幼児が一定の専門性を踏まえた環境体験を継続的に受ける体制を構築し、幼稚園・保育園等が実施する環境体験を支援する。 |
| 事業概要 | (1) 推進委員会の開催<br>(2) こども環境コーディネーターの設置<br>(3) 自園プログラムの実施<br>(4) ボランティアの育成<br>(5) 派遣プログラムの実施<br>(6) 実践発表等交流会の開催 |
| これまでの改善状況 | 派遣ボランティアの育成・派遣が伸び悩んだコロナ禍においては環境部職員が研修を受けることで一定の専門性を身につけた上で派遣プログラムの一部を実施し、以降も、教育委員会（人と自然の博物館）のエコロコスタッフが地域へ出張して研修を実施するなど、専門性を持った人材の育成に努めている。 |
| 業務フロー | 環境体験コンテンツの開発等の専門性やノウハウを必要とする部分があるため、教育委員会（人と自然の博物館）に必要経費を分任して実施 |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 13,357 千円 | 12,698 千円 | 13,927 千円 | 14,808 千円 |
| 経費内訳 | | 報酬・賃金 | 3,992 千円 | 3,992 千円 | 3,992 千円 | 3,992 千円 |
| | | 委託料 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 補助金・交付金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 貸付金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | その他 | 9,365 千円 | 8,706 千円 | 9,935 千円 | 10,816 千円 |
| （財源内訳） | | (国庫) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (特定) | (13,357千円) | (12,698千円) | (13,927千円) | (14,808千円) |
| | | (起債) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (一般財源) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 13,813 千円 | 13,565 千円 | 14,442 千円 | 14,808 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | 96.7% | 93.6% | 96.4% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 1.0人 | 従事人員 1.0人 | 従事人員 1.0人 | 従事人員 1.0人 |
| | | | 8,225 千円 | 8,257 千円 | 8,456 千円 | 8,720 千円 |
| | 職員給与費 | a | 7,102 千円 | 7,136 千円 | 7,156 千円 | 7,599 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 572 千円 | 583 千円 | 800 千円 | 583 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 551 千円 | 538 千円 | 500 千円 | 538 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 21,582 千円 | 20,955 千円 | 22,383 千円 | 23,528 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①）<br>県内で環境保全活動に積極的な人の割合（%）<br>※「ひょうごの豊かさ指標」県民意識調査で、環境に関する質問４項目に対して肯定的な回答をした人の割合 | 目標 | 60 | 60 | 60 | 60 | 60【R9年度】 |
| | | 実績（見込） | 56 | 64 | 65 | (60) | |
| | | (単位当たりコスト) | (385 千円) | (327 千円) | (344 千円) | (392 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 93.3% | 106.7% | 108.3% | 100.0% | |
| | 成果指標（アウトカム指標②）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標①）<br>派遣環境体験プログラム実施園数 | 目標 | 500 | 550 | 500 | 500 | 4,000【R9年度】 |
| | | 実績（見込） | 407 | 567 | 890 | (500) | |
| | | (単位当たりコスト) | (53 千円) | (37 千円) | (25 千円) | (47 千円) | |
| | | ［うち事業拡大分］ | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | 81.4% | 103.1% | 178.0% | (100.0%) | |
| | 活動指標（アウトプット指標②）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | ［うち事業拡大分］ | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| 目標 | 終期設定 | (有)（令和9年度）・無 | | | | | |
| | 改善基準 | プログラムの派遣数等が目標値を下回った場合はプログラム等の内容の改善を検討 | | | | | |

## 自己評価

| 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|
| ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | 派遣プログラムの実施園数はR3年度:81.4%とコロナ禍の影響により目標に達していないが、R4年度：103.1%、R5年度:178.0%と目標を達成した。また、訪問した園からは、訪問後、こども達に自然へのより積極的な行動・アプローチが見られたなど、高評価を得ている。 | 訪問した園からは、高評価を得ており、事業目的は概ね達成している。 |
| ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | 複数園（系列園、近隣園）を１か所に集め、同時に派遣プログラムを実施することで効率的に実施をした。 | |

## 評価

課題・今後の方向性

☐ 改善　☐ 他事業と統合　☑ その他

説明

学生や保育士を対象とした研修実施等によりボランティア人材の育成に引続き取組んでいくとともに、訪問園数年間500園以上の水準を維持しつつ、幼稚園・保育園等からのニーズも踏まえ、より効果的なプログラムの検討を進める。

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | 脱炭素型消費行動促進事業 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 環境政策課 |
| | | 担当班 | 政策班 |
| | | 連絡先 | 078-362-4421 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 令和５年度 | 終了年度 | 令和７年度 | 関連計画等 | 兵庫県地球温暖化対策推進計画（R4.3改定） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業区分 | ☑ 国補助事業　☑ 県単独事業 | | |
| 実施方法 | ☑ 直執行　☑ 委　託　☐ 補　助　☐ その他(　　) | 実施主体等 | 県 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 県民に身近な食の分野（農産物や食品）や生活用品などの「脱炭素の見える化」を積極的に進め、消費行動の新たな選択基準としての「脱炭素」の普及を図る。 |
| 事業概要 | (1) 県民への脱炭素型消費の普及啓発（ｲﾍﾞﾝﾄや県民参加型ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ等を通じた県版「デコ活※」の展開）<br>※環境省が推進する「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」<br>(2) 農産物CFP表示の展開（①小売事業者と連携した農産物のモデル販売の実施、②農産物CFP表示(ﾗﾍﾞﾙ)及び算定手法の大阪府との共通化検討、実施、③農産物CFP表示品目の拡大）<br>(3) 製品CFPの利用拡大（①製品CFP普及のための勉強会実施、②製品CFP表示(ﾗﾍﾞﾙ)の検討、実施） |
| これまでの改善状況 | ○令和６年度<br>(1) 脱炭素型消費の普及啓発イベントを新たに実施、活動ロゴマーク、キャッチフレーズの制定、WEBによる広報<br>(2) 農産物CFP表示(ﾗﾍﾞﾙ)、算定手法の大阪府との共通化の検討・実施、モデル販売の実施、表示品目の拡大<br>(3) 製品CFP表示に関するBtoC企業向け勉強会を新たに実施、表示(ﾗﾍﾞﾙ)の検討・実施 |
| 業務フロー | (1) 県民への脱炭素型消費の普及促進：イベント実施・ワークショップ開催（委託業者）<br>(2) 農産物CFP表示の展開：モデル販売実施・ラベル表示検討（委託業者）、品目拡大検討（県）<br>(3) 製品CFPの利用拡大：勉強会実施・ラベル表示検討（委託業者） |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 0 千円 | 0 千円 | 6,916 千円 | 6,585 千円 |
| 経費内訳 | 報酬・賃金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 委託料 | | 0 千円 | 0 千円 | 6,916 千円 | 6,068 千円 |
| | 補助金・交付金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 貸付金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | その他 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 517 千円 |
| （財源内訳） | (国庫) | | (0千円) | (0千円) | (322千円) | (400千円) |
| | (特定) | | (0千円) | (0千円) | (6,594千円) | (6,185千円) |
| | (起債) | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | (一般財源) | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 0 千円 | 0 千円 | 6,916 千円 | 6,585 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | － | － | 100.0% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 0.0人 | 従事人員 0.0人 | 従事人員 1.2人 | 従事人員 1.2人 |
| | | | 0 千円 | 0 千円 | 10,147 千円 | 10,465 千円 |
| 職員給与費 | | a | 0 千円 | 0 千円 | 8,587 千円 | 9,119 千円 |
| 賞与引当金繰入額 | | b | 0 千円 | 0 千円 | 960 千円 | 700 千円 |
| 退職手当引当金繰入額 | | c | 0 千円 | 0 千円 | 600 千円 | 646 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 0 千円 | 0 千円 | 17,063 千円 | 17,050 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①） | 目標 | － | － | 60 | 60 | 60 |
| | 県内で環境配慮製品を積極的に購入する人の割合（%） | 実績（見込） | － | － | 54.6 | (60) | 【R7年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | (313 千円) | (284 千円) | |
| | | 達成率（見込） | － | － | 91.0% | (100.0%) | |
| | 成果指標（アウトカム指標②） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標①） | 目標 | － | － | 50 | 100 | 150 |
| | ワークショップ・イベント参加者数（人） | 実績（見込） | － | － | 96 | (100) | 【R7年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | (178 千円) | (171 千円) | |
| | | 達成率（見込） | － | － | 192.0% | (100.0%) | |
| | 活動指標（アウトプット指標②） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 終期設定 | (有)（令和７年度）・無 | | | | | |
| | 改善基準 | 達成率が80%を下回った場合 | | | | | |

## 自己評価

| 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|
| ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | モデルとなる農産物２品目（緑肥ヘアリーベッチ米、コウノトリ育むお米）、地場産品１品目（日本酒（神戸酒心館））において、通常商品と比較可能な形でCFP算定を行うことができた。<br>県民参加型ワークショップでは、消費者団体等の実施協力により目標数の約２倍となる計96名が参加した。 | 脱炭素型ライフスタイルの普及啓発を図るため、脱炭素型商品のCFP算定について、モデル的に実施できた。<br>また、県民参加型ワークショップについて、目標どおり３団体において開催した。 |
| ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | 農産物CFPの対象品目拡大やモデル販売の実施、製品CFPの勉強会実施等、民間事業者のノウハウを活用しながら県民への脱炭素型消費の普及をより一層推進していく。 | |

## 課題・今後の方向性

☐ 改善　☐ 他事業と統合　☑ その他

説明

兵庫サステナブル基金の補助期間３年により令和７年度で終了予定。
令和６年度は、兵庫・大阪連携会議における「関西人口の７割を占める兵庫･大阪両府県民を対象に連携による規模のメリットを発揮した脱炭素型ライフスタイルを推進する」との議論を踏まえ、CFPによる見える化効果を活用し、R7年度に向けても継続して、脱炭素型ライフスタイルの普及啓発を効果的に推進する。

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | 豊かで美しい瀬戸内海の創生 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 水大気課 |
| | | 担当班 | 水質班、里海再生班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3291、078-362-3468 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 平成28年度 | 終了年度 | ー | 関連計画等 | ・瀬戸内海の環境の保全に関する兵庫県計画<br>・兵庫県栄養塩類管理計画 |
| 事業区分 | ☑ 国補助事業　☑ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | ☑ 直執行　☑ 委　託　☑ 補　助　☐ その他(　　) | | | 実施主体等 | 県 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 「瀬戸内海の環境の保全に関する兵庫県計画」ならびに「兵庫県栄養塩類管理計画」に基づき、豊かで美しい瀬戸内海の創生のため、「栄養塩類の管理」ならびに「藻場等の保全・再生・創出」に取り組む。 |
| 事業概要 | ①栄養塩類の管理<br>兵庫県栄養塩類管理計画（R4.10策定）に基づき、計画的な栄養塩類供給に伴う水質の状況の検証を行う。また、目標達成のため、栄養塩類増加措置実施者の追加、新たな栄養塩類供給方策の調査・研究に取り組む。<br>②藻場等の保全・再生・創出<br>沿岸域の環境の保全、再生及び創出を図るため、地域団体等が行う実践活動等に対して助成する。 |
| これまでの改善状況 | ①栄養塩類の管理<br>R5：水質の状況を検証するため、生物・生態系のモニタリングを強化<br>事業者等へアンケートやヒアリングを実施し、栄養塩類増加措置実施者の追加検討<br>施肥の効果検証のための調査研究を実施<br>②藻場等の保全・再生・創出<br>R4：藻場・干潟等の再生・創出の取組に繋がる環境学習などの啓発事業を補助対象に追加<br>R6：補助体系を「立ち上げ支援」、「藻場等の保全活動」に再編 |
| 業務フロー | ①栄養塩類の管理<br>水質の状況の検証・栄養塩類増加措置実施者の追加：県（委託）→（公財)ひょうご環境創造協会<br>新たな栄養塩類供給方策の調査・研究：県（委託）→（公社)瀬戸内海環境保全協会<br>②藻場等の保全・再生・創出<br>ブルーカーボン生態系の再生・創出支援事業：県（補助）→ 団体等 |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 32,433 千円 | 28,008 千円 | 24,577 千円 | 13,128 千円 |
| 経費内訳 | 報酬・賃金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 委託料 | | 16,493 千円 | 25,140 千円 | 22,849 千円 | 10,474 千円 |
| | 補助金・交付金 | | 14,860 千円 | 7,300 千円 | 1,479 千円 | 2,500 千円 |
| | 貸付金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | その他 | | 1,080 千円 | 868 千円 | 249 千円 | 154 千円 |
| （財源内訳） | (国庫) | | (6,180千円) | (8,650千円) | (9,900千円) | (0千円) |
| | (特定) | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | (起債) | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | (一般財源) | | (26,253千円) | (24,658千円) | (14,677千円) | (13,128千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 32,433 千円 | 28,008 千円 | 25,123 千円 | 13,128 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | 100.0% | 100.0% | 97.8% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 1.4人 | 従事人員 2.0人 | 従事人員 2.0人 | 従事人員 2.0人 |
| | | | 11,496 千円 | 16,450 千円 | 16,912 千円 | 17,238 千円 |
| | 職員給与費 | a | 9,943 千円 | 14,204 千円 | 14,312 千円 | 14,992 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 812 千円 | 1,144 千円 | 1,600 千円 | 1,144 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 741 千円 | 1,102 千円 | 1,000 千円 | 1,102 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 43,929 千円 | 44,458 千円 | 41,489 千円 | 30,366 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①） | 目標 | － | － | １／７ | １／７ | ７／７ |
| | 県条例下限値達成水域数（望ましい栄養塩類濃度） | 実績（見込） | － | － | １／７ | （１／７） | 【R25年度】 |
| | | （単位当たりコスト） | － | － | （1 千円） | （1 千円） | |
| | | 達成率（見込） | － | － | 100.0% | （100.0%） | |
| | 活動指標（アウトプット指標①） | 目標 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | 瀬戸内海の全窒素・全燐の環境基準達成率100%の維持 | 実績（見込） | 100 | 100 | 100 | （100） | 【R25年度】 |
| | | （単位当たりコスト） | （439 千円） | （445 千円） | （415 千円） | （304 千円） | |
| | | 達成率（見込） | 100.0% | 100.0% | 100.0% | （100.0%） | |
| | 活動指標（アウトプット指標②） | 目標 | 14,050 | 14,300 | 14,300 | － | 14,300 |
| | 藻場等の再生創出面積（$m^2$） | 実績（見込） | 14,017 | 14,313 | 14,313 | － | 【R5年度】 |
| | | （単位当たりコスト） | （3 千円） | （3 千円） | （3 千円） | － | |
| | | 達成率（見込） | 99.8% | 100.1% | 100.1% | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標③） | 目標 | 5 | 5 | 3 | 5 | 3 |
| | 藻場等の再生創出事業に取り組む地域団体数 | 実績（見込） | 2 | 3 | 6 | （5） | 【R9年度】 |
| | | （単位当たりコスト） | （21,965 千円） | （14,819 千円） | （6,915 千円） | （8,298 千円） | |
| | | 達成率（見込） | 40.0% | 60.0% | 200.0% | （100.0%） | |
| 標 | 終期設定 | 有（　　）・ | | | | 無 | |
| | 改善基準 | 藻場再生の実施状況に応じて補助対象を見直し | | | | | |

## 自己評価

| 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|
| ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | ①栄養塩類の管理<br>・近年、のりの色落ちや漁獲量の減少などの深刻な課題が生じており、その要因の一つが、栄養塩類の濃度低下。そこで、令和元年10月に県では条例を改正し、望ましい栄養塩類濃度を全国で初めて設定。<br>・令和４年10月に兵庫県栄養塩類管理計画を策定し、計画的な栄養塩類供給を工場・事業場と連携して推進<br>・令和5年度は、望ましい栄養塩類濃度を達成した海域は１水域のみであった。<br>②藻場等の保全・再生・創出<br>藻場・干潟の保全、再生、創出等を実施するNPO等に助成。令和４年度は助成対象を拡大した、令和５年度は、目標を達成した。 | 豊かで美しい瀬戸内海の創生のため、栄養塩類の管理については、兵庫県栄養塩類管理計画の対象海域（７水域）で、１水域のみの目標達成となっているが、同計画の取組を推進することにより着実に目標を達成させていく。<br>また、目標を達成した藻場等の保全・再生・創出については、別途実施しているひょうごﾌﾞﾙｰｶｰﾎﾞﾝ連絡会議による産学公民の連携を強化し、さらなる藻場等の保全・再生・創出に取り組む。 |
| ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | ①栄養塩類の管理<br>・栄養塩類供給は、民間工場や下水処理場が実施し、その栄養塩類供給が水質に与える影響については、法に基づき県が予測・評価<br>・民間工場等と連携して栄養塩類供給を実施することでコストを最小限化<br>②豊かで美しい瀬戸内海の創生<br>既に藻場等の再生のノウハウや資材を有するNPOに助成することで効率的に事業を実施 | |

## 課題・今後の方向性

☐ 改善　☐ 他事業と統合　☑ その他

説明

①栄養塩類濃度の管理
目標達成のため、栄養塩類等の県民の理解を深める取組の検討・実施や栄養塩類増加措置実施者の追加、新たな栄養塩類供給方策の調査・研究を推進

②藻場等の保全・再生・創出
「瀬戸内海の環境の保全に関する兵庫県計画」（R5.11改定）に基づき、藻場・干潟等の保全・再生・創出に向けた支援等を強化・推進するとともに、大阪湾をブルーカーボン生態系（藻場・干潟等）の回廊でつなぐ「大阪湾MOBAリンク構想」の実現を目指し、企業、団体、行政機関等が連携し取組を推進する「大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス」を大阪府とともに設立するなど、大阪府と連携し取組を推進

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業名 | ①シカ有害捕獲促進支援事業<br>②シカ有害捕獲専任班支援事業<br>③狩猟期シカ捕獲拡大事業 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 自然鳥獣共生課 |
| | | 担当班 | 被害対策班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3463 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | ①H19、②H23、③H22 | 終了年度 | ー | 関連計画等 | 兵庫県環境基本計画 |
| 事業区分 | ☑ 国補助事業　☐ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | ☐ 直執行　☐ 委託　☑ 補助　☐ その他(　　) | | | 実施主体等 | 市町協議会等 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | シカによる農林業被害の防止や森林植生衰退を抑制するため、市町による有害捕獲を促進するとともに、狩猟期においても狩猟者による捕獲を推進し、生息密度の低減を図る。 |
| 事業概要 | ①シカ管理計画に基づき、狩猟期間以外の８ヶ月間及び狩猟期間（11/15～3/15）における鳥獣保護区において、広域的な一斉捕獲により、シカの生息頭数減少と分布拡大の防止<br>②狩猟技能に秀でた狩猟者で構成された捕獲班による効率的な捕獲活動を支援し、計画的かつ迅速な捕獲活動を実施<br>③狩猟期間中のシカに捕獲について、狩猟者に対して捕獲頭数に応じて報償金を支給 |
| これまでの改善状況 | ・各市町において、狩猟と有害捕獲をあわせて実施している。<br>・被害集落自立サポート事業による集落への専門家指導を通じて、捕獲実績の少ないワナについては設置場所の変更検討や、ＩＣＴ技術も組み合わせ捕獲を進めることで、効率的な捕獲に取り組んでいる。 |
| 業務フロー | ①②市町要望に基づき、国に交付申請。県がとりまとめて。実績に基づき精算。<br>③狩猟者が県農林事務所に申請し、捕獲頭数に応じて報償金を支給（処理加工施設搬入分については国庫を充当、自家消費分については市町負担金） |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 185,762 千円 | 155,088 千円 | 210,734 千円 | 220,234 千円 |
| 経費内訳 | 報酬・賃金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 委託料 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 補助金・交付金 | | 11,616 千円 | 17,209 千円 | 40,221 千円 | 45,734 千円 |
| | 貸付金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | その他 | | 174,146 千円 | 137,879 千円 | 170,513 千円 | 174,500 千円 |
| （財源内訳） | (国庫) | | (49,931千円) | (63,523千円) | (63,446千円) | (78,694千円) |
| | (特定) | | (131,840千円) | (98,014千円) | (105,504千円) | (129,500千円) |
| | (起債) | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | (一般財源) | | (11,772千円) | (16,281千円) | (41,784千円) | (12,040千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 240,188 千円 | 223,026 千円 | 224,100 千円 | 220,234 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | 77.3% | 69.5% | 94.0% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 2.1人 | 従事人員 2.1人 | 従事人員 2.1人 | 従事人員 2.1人 |
| | | | 17,275 千円 | 17,341 千円 | 17,758 千円 | 18,313 千円 |
| | 職員給与費 | a | 14,915 千円 | 14,986 千円 | 15,028 千円 | 15,958 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 1,202 千円 | 1,225 千円 | 1,680 千円 | 1,225 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 1,158 千円 | 1,130 千円 | 1,050 千円 | 1,130 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 203,037 千円 | 172,429 千円 | 228,492 千円 | 238,547 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①） | 目標 | 163,689 | 160,676 | 157,663 | 154,650 | 151,637 |
| | シカによる農林業被害額<br>※目標値未満を達成目標とする。<br>（兵庫県環境基本計画の環境指標） | 実績（見込） | 203,806 | 157,167 | 167,030 | (154,650) | 【R7年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (1.0 千円) | (1.1 千円) | (1.4 千円) | (1.5 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 124.5% | 97.8% | 105.9% | (100.0%) | |
| | 成果指標（アウトカム指標②） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 成果指標（アウトカム指標③） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標①） | 目標 | 46,000 | 46,000 | 46,000 | 46,000 | 46,000 |
| | シカ捕獲頭数<br>（地域創生戦略事業進捗指標（事業KPI）） | 実績（見込） | 48,716 | 43,073 | 43,029 | (46,000) | 【毎年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (4.2 千円) | (4.0 千円) | (5.3 千円) | (5.2 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 105.9% | 93.6% | 93.5% | (100.0%) | |
| | 活動指標（アウトプット指標②） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標③） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 終期設定 | 有（　　）・ 無 | | | | | |
| | 改善基準 | － | | | | | |

| 自己評価 | 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|---|
| | ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | 令和５年度のシカによる農林業被害額は約1.7億円と、近年のピークであった平成22年の約4.7億円に対して減少しているが依然として高い水準である。 | シカ管理計画に定めるR5年度の捕獲目標46,000頭に対して実績が43,029頭の捕獲となり、目標は未達成となった。<br>農林業被害額についても、目標は未達となり依然として高い水準にあるため、引き続き加害個体の捕獲を推進し被害軽減に努める。 |
| | ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | 狩猟についても報償費の対象とすることで捕獲数の増加につながっている。<br>財源については、捕獲の報償費には鳥獣被害防止総合対策交付金と特別交付税措置が設置されており、県は市町負担の半額を補助する仕組みとなっているため、コストも低い。 | |

**課題・今後の方向性**

☑ 改善　☐ 他事業と統合　☐ その他

説明

シカ管理計画に基づき捕獲活動を推進していく。特に、農作物被害の軽減のためには、加害個体を集中して捕獲する必要がある。ICT技術や鳥獣被害集落自立サポート事業等を組み合わせて捕獲を継続していく。

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業名 | 特定外来生物被害対策事業<br>（情報収集の強化等によるアライグマ・ヌートリアの被害軽減に向けた支援強化） | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 自然鳥獣共生課 |
| | | 担当班 | 自然環境保全班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3389 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 平成18年度 | 終了年度 | ー | 関連計画等 | 兵庫県環境基本計画 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業区分 | ☐ 国補助事業 | ☑ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | ☐ 直執行 | ☐ 委託 | ☑ 補助 | ☐ その他（　　） | 実施主体等 | 市町 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 市町によるアライグマ、ヌートリアの捕獲・搬入及び安楽死処分に係る実施経費の一部を助成し、迅速かつ効果的な捕獲を進め、アライグマ、ヌートリアの分域拡大・定着防止と、農林業・生活環境被害の低減を図る。 |
| 事業概要 | 市町がアライグマ、ヌートリア対策として実施する①わな等による捕獲、②炭酸ガス等による安楽死等殺処分、③死体処分のためのクリーンセンター等への搬入に要する経費の一部を補助する。 |
| これまでの改善状況 | ①　令和元年度以降、市町からの要望に対応し、交付金対象に、従来の「捕獲」、「安楽死処分」に「搬入」にかかる経費を追加し算定対象事業費の上限を増額（６千円→７千円）<br>②　アライグマ・ヌートリアを早期に地域から排除するため、捕獲目標を７千頭→８千頭(R3)→９千頭(R6)に拡大 |
| 業務フロー | 県 ③1/4補助→ 市町 ①委託→ 猟友会（②・わな等による捕獲・炭酸ガス等による殺処分・クリーンセンター等への搬入） |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 13,737 千円 | 14,975 千円 | 14,000 千円 | 15,750 千円 |
| 経費内訳 | 報酬・賃金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 委託料 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 補助金・交付金 | | 13,737 千円 | 14,975 千円 | 14,000 千円 | 15,750 千円 |
| | 貸付金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | その他 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| （財源内訳） | （国庫） | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | （特定） | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | （起債） | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | （一般財源） | | (13,737千円) | (14,975千円) | (14,000千円) | (15,750千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 14,000 千円 | 14,000 千円 | 14,000 千円 | 15,750 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | 98.1% | 107.0% | 100.0% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 1.8人 | 従事人員 1.8人 | 従事人員 1.8人 | 従事人員 1.8人 |
| | | | 14,806 千円 | 14,864 千円 | 15,221 千円 | 15,698 千円 |
| | 職員給与費 | a | 12,784 千円 | 12,845 千円 | 12,881 千円 | 13,679 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 1,030 千円 | 1,050 千円 | 1,440 千円 | 1,050 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 992 千円 | 969 千円 | 900 千円 | 969 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 28,543 千円 | 29,839 千円 | 29,221 千円 | 31,448 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①） | 目標 | 62,000 | 60,000 | 58,000 | 56,000 | 55,000 |
| | アライグマ･ヌートリアの被害額（兵庫県環境基本計画　計画指標の内訳） | 実績（見込） | 55,125 | 61,763 | 63,765 | (56,000) | 【R7年度】 |
| | | （単位当たりコスト） | (0.5 千円) | (0.5 千円) | (0.5 千円) | (0.6 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 88.9% | 102.9% | 109.9% | (100.0%) | |
| | 成果指標（アウトカム指標②） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | （単位当たりコスト） | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 成果指標（アウトカム指標③） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | （単位当たりコスト） | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標①） | 目標 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | 9,000 | 9,000 |
| | 年間捕獲頭数（地域創生戦略事業進捗指標） | 実績（見込） | 9,393 | 9,789 | 9,491 | (9,000) | 【毎年度】 |
| | | （単位当たりコスト） | (3 千円) | (3 千円) | (3 千円) | (3 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 117.4% | 122.4% | 118.6% | (100.0%) | |
| | 活動指標（アウトプット指標②） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | （単位当たりコスト） | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標③） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | （単位当たりコスト） | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| 標 | 終期設定 | 有（　　）・ | | | | 無 | |
| | 改善基準 | － | | | | | |

| 自己評価 | 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|---|
| | ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | ・アライグマ、ヌートリアによる農業被害は甚大であり、農業被害を軽減するための本事業は県民ニーズを踏まえた事業である。<br>・農業被害の減少効果のある５千頭を上回る頭数を捕獲目標に設定している。また令和２年度及び令和６年度には目標の見直しを実施した。 | ・近年は、捕獲活動等への支援による捕獲防除が進み、年間捕獲頭数は9千頭前後となっているが、農業被害額、被害面積は増加傾向である。このため、R6以降はメスの出産前の3月に捕獲圧を強めるほか、捕獲目標を近年の捕獲頭数の実績に近い9,000頭に引き上げ、さらに効率的で効果的な捕獲を推進していく。<br>・都市部における生活被害（糞尿、人的被害）が拡大傾向にあるが、生息頭数及び生息場所を把握出来ていないこと等の理由から、捕獲頭数が伸び悩んでいることが課題である。 |
| | ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | 市町振興支援交付金は、一頭あたりの上限を設定した上で交付していることから、市町にコスト削減を促す仕組みとなっている。 | |

## 評価

課題・今後の方向性

☑ 改善　☐ 他事業と統合　☐ その他

説明

・令和５年度以降、実際に防除を行う市町から、わなごとの捕獲効率に向けたデータ収集を行い、森林動物研究センターとも連携した分析・検証の上、捕獲の効率化に向けた具体的な検討を実施
・外来生物対策協議会を中心に、専門家とも連携しつつ、先進的な取組や効果的な対策について、住民に分かりやすい普及啓発を実践

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | 特定外来生物法改正に対応する総合的対策の推進 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 自然鳥獣共生課 |
| | | 担当班 | 自然環境保全班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3389 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 令和５年度 | 終了年度 | ― | 関連計画等 | ― |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業区分 | ☑ 国補助事業　☐ 県単独事業 | | | |
| 実施方法 | ☑ 直執行　☐ 委　託　☑ 補　助　☐ その他(　　) | 実施主体等 | 県、協議会、市町等 | |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 外来生物法改正（R5.4.1施行）により、都道府県に対し、日本での定着が既に確認されている特定外来生物の防除義務が規定されたことから、これに対応するための総合的な対策を講じる。 |
| 事業概要 | ①県内地域で新たに侵入が確認された特定外来生物の初期防除を実施する。また、県内に既に定着している特定外来生物全般の防除を行う市町等に対し、技術的支援等を実施する。<br>②県内へ新たに侵入が確認された外来生物等のチラシを作成し、住民への普及啓発を図る。<br>③市町域を超えて防除に取り組む地域活動団体への財政支援を実施する。<br>④近年繁茂が拡大しているナガエツルノゲイトウについては、防除手法の実証など重点的に対策を講じる。 |
| これまでの改善状況 | 〔R6〕ナガエツルノゲイトウに係る緊急対策<br>・生息域調査及び見える化の実施　・防除計画の策定　・簡易で効果的な防除手法の確立・実証<br>・防除実施者の育成　・普及啓発 |
| 業務フロー | 県 → 負担金 → 兵庫県外来生物対策協議会 → 補助等 → 地域団体等 |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 0 千円 | 0 千円 | 9,586 千円 | 19,616 千円 |
| 経費内訳 | 報酬・賃金 | | ― | ― | 0 千円 | 0 千円 |
| | 委託料 | | ― | ― | 0 千円 | 0 千円 |
| | 補助金・交付金 | | ― | ― | 9,586 千円 | 0 千円 |
| | 貸付金 | | ― | ― | 0 千円 | 0 千円 |
| | その他 | | ― | ― | 0 千円 | 19,616 千円 |
| （財源内訳） | (国庫) | | ― | ― | (4,131千円) | (10,626千円) |
| | (特定) | | ― | ― | (0千円) | (0千円) |
| | (起債) | | ― | ― | (0千円) | (0千円) |
| | (一般財源) | | ― | ― | (5,455千円) | (8,990千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | ― | ― | 10,046 千円 | 19,616 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | ― | ― | 95.4% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 ― | 従事人員 ― | 従事人員 1.8人 | 従事人員 1.8人 |
| | | | 0 千円 | 0 千円 | 15,221 千円 | 15,698 千円 |
| 職員給与費 | | a | ― | ― | 12,881 千円 | 13,679 千円 |
| 賞与引当金繰入額 | | b | ― | ― | 1,440 千円 | 1,050 千円 |
| 退職手当引当金繰入額 | | c | ― | ― | 900 千円 | 969 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 0 千円 | 0 千円 | 24,807 千円 | 35,314 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①）<br>令和4年度末時点で、県内に定着していない特定外来生物が新たに県内に定着することにより生じる生活・農業等の被害額 | 目標 | － | － | 0 | 0 | 0円 |
| | | 実績（見込） | － | － | 0 | (0) | 【毎年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | 100.0% | (100.0%) | |
| | 成果指標（アウトカム指標②）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 成果指標（アウトカム指標③）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| 指標 | 活動指標（アウトプット指標①）<br>令和4年度末時点で、県内に定着していない特定外来生物が新たに県内に定着する件数 | 目標 | － | － | 0 | 0 | 0種 |
| | | 実績（見込） | － | － | 0 | (0) | 【毎年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | 100.0% | (100.0%) | |
| | 活動指標（アウトプット指標②）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標③）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 終期設定 | 有（　　）・無 | | | | | |
| | 改善基準 | － | | | | | |

| 自己評価 | 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|---|
| | ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | ・外来生物法改正により、既に日本で定着済の特定外来生物については県に防除義務が規定されたことから、これを踏まえた事業である。<br>・PCR検査を用いた同定検査や薬剤の開発等、先進的な取組を行っている。 | 専門家派遣の枠組みを用いて迅速な初期防除を行うことにより、特定外来生物の定着阻止に一定の効果が得られている。<br>しかし、クビアカツヤカミキリやナガエツルノゲイトウなど、生息域が拡大しつつある種に対して、引き続き防除が必要である。 |
| | ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | R5より新設された国交付金（特定外来生物防除等対策事業）を活用し、事業を実施している。 | |

**課題・今後の方向性**

☑ 改善　☐ 他事業と統合　☐ その他

説明

・県外来生物対策協議会を中心に専門家や市町等とも連携し、普及啓発や初期防除に取り組む。
・令和６年度は、近年、本県で生息地域を拡大している特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」への抜本的対策を推進する。

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | 狩猟者掘り起し・有害鳥獣捕獲者育成プロジェクト | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 自然鳥獣共生課 |
| | | 担当班 | 被害対策班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3463 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 平成26年度 | 終了年度 | 令和８年度 | 関連計画等 | 第13次鳥獣保護管理事業計画 |
| 事業区分 | ☑ 国補助事業　□ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | ☑ 直執行　☑ 委　託　☑ 補　助　□ その他(　　) | | | 実施主体等 | 県、市町、猟友会 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 狩猟者の掘り起しを進めるために、狩猟やジビエに関するイベントを開催するほか、有害鳥獣捕獲に従事する優秀な担い手を確保するため、有害鳥獣捕獲リーダー（カラー）育成研修や有害鳥獣捕獲種別実践研修を実施する。 |
| 事業概要 | 市町や猟友会による狩猟の魅力PRや狩猟免許試験を受験する者を対象とした講習会等の開催を支援するほか、有害鳥獣捕獲担い手集合研修や熟練狩猟者による有害鳥獣捕獲種別実践研修により人材育成を進める。 |
| これまでの改善状況 | ○令和元年度<br>わな捕獲技術アップ講習会支援事業を他事業と一体的に実施することとし、本事業は銃猟の狩猟者育成に重点を置いた事業に改善<br>○令和６年度<br>県立総合射撃場の開設に伴い、「狩猟者」と「有害鳥獣捕獲者」の区別を明確化し、狩猟者の育成は射撃場指定管理者が実施することで、狩猟者確保から有害鳥獣捕獲者の育成に係る一連の取組を一体的に進めることができるよう事業を改善 |
| 業務フロー | （１）ひょうご狩猟フォーラム＆ジビエ利活用展：県で直接執行<br>（２）狩猟のいろはと魅力発見支援事業：<br>内示（県）、交付申請（猟友会）→交付決定（県）<br>（３）狩猟体験会等支援事業<br>要望（市町）→受付・審査、内示（県）、交付申請（市町）→交付決定（県）<br>（４）狩猟免許講習会支援事業<br>内示（県）、交付申請（猟友会）→交付決定（県）<br>（５）有害鳥獣捕獲リーダー（カラー）研修：県から民間コンサルタントへ委託<br>（６）有害鳥獣捕獲担い手集合研修：県から民間コンサルタントへ委託<br>（７）有害鳥獣捕獲獣種別実践研修：県で講師を選定して講師謝金で実施<br>（８）狩猟技能向上促進事業<br>内示（県）、交付申請（猟友会）→交付決定（県） |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 12,474 千円 | 13,438 千円 | 14,075 千円 | 11,194 千円 |
| | 経費内訳 | 報酬・賃金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 委託料 | 9,273 千円 | 9,692 千円 | 9,941 千円 | 6,600 千円 |
| | | 補助金・交付金 | 2,494 千円 | 2,998 千円 | 3,392 千円 | 2,743 千円 |
| | | 貸付金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | その他 | 707 千円 | 748 千円 | 742 千円 | 1,851 千円 |
| | （財源内訳） | (国庫) | (6,091千円) | (5,420千円) | (5,740千円) | (4,298千円) |
| | | (特定) | (1,676千円) | (1,598千円) | (1,598千円) | (1,598千円) |
| | | (起債) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (一般財源) | (7,091千円) | (6,420千円) | (6,737千円) | (5,298千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 14,858 千円 | 14,280 千円 | 14,280 千円 | 11,194 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | 84.0% | 94.1% | 98.6% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 0.5人 | 従事人員 0.5人 | 従事人員 0.5人 | 従事人員 0.5人 |
| | | | 4,113 千円 | 4,129 千円 | 4,228 千円 | 4,361 千円 |
| | 職員給与費 | a | 3,551 千円 | 3,568 千円 | 3,578 千円 | 3,800 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 286 千円 | 292 千円 | 400 千円 | 292 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 276 千円 | 269 千円 | 250 千円 | 269 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 16,587 千円 | 17,567 千円 | 18,303 千円 | 15,555 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 成果指標(アウトカム指標①) | 有害鳥獣捕獲班員（銃）育成人数 | 目標 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40人【R8年度】 |
| | | 実績（見込） | 22 | 23 | 29 | (40) | |
| | | (単位当たりコスト) | (754 千円) | (764 千円) | (631 千円) | (389 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 55.0% | 57.5% | 72.5% | (100.0%) | |
| 成果指標（アウトカム指標②） | ― | 目標 | ― | ― | ― | ― | ― |
| | | 実績（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | | (単位当たりコスト) | ― | ― | ― | ― | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| 成果指標（アウトカム指標③） | ― | 目標 | ― | ― | ― | ― | ― |
| | | 実績（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | | (単位当たりコスト) | ― | ― | ― | ― | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| 活動指標(アウトプット指標①) | 有害鳥獣捕獲担い手集合研修の受講者数 | 目標 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30人【R8年度】 |
| | | 実績（見込） | 13 | 26 | 21 | (30) | |
| | | (単位当たりコスト) | (1,276 千円) | (676 千円) | (872 千円) | (519 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 43.3% | 86.7% | 70.0% | (100.0%) | |
| 活動指標（アウトプット指標②） | 狩猟体験会実施市町数 | 目標 | 10 | 5 | 5 | 5 | 25市町【R8年度】 |
| | | 実績（見込） | 2 | 4 | 7 | (5) | |
| | | (単位当たりコスト) | (8,294 千円) | (4,392 千円) | (2,615 千円) | (3,111 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 20.0% | 80.0% | 140.0% | (100.0%) | |
| 活動指標（アウトプット指標③） | ― | 目標 | ― | ― | ― | ― | ― |
| | | 実績（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | | (単位当たりコスト) | ― | ― | ― | ― | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| 終期設定 | | (有)（令和８年度）・無 | | | | | |
| 改善基準 | | ― | | | | | |

| 自己評価 | 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|---|
| | ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | シカやイノシシなどの野生動物による農林業被害が多発していることから、狩猟者の確保及び有害鳥獣捕獲の担い手育成は県民ニーズを踏まえた事業である。 | ・農林業被害防止や捕獲等による個体数管理を維持していくためには、引き続き狩猟者の育成を図り、捕獲実施体制の確立に取り組む必要がある。<br>・具体的な課題としては、ICT等の新技術に対応できる狩猟者が不足していること、有害鳥獣捕獲班の組織力が不足していることから、効率的な捕獲が行えていないことがある。 |
| | ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | ・市町の狩猟体験会等の開催支援経費、県のﾏﾝﾂｰﾏﾝ技術指導経費は定額のため、コスト削減を促すものとなっている。<br>・有害鳥獣捕獲入門講座は修了者に対してアンケートやフォローアップを行い効果的なカリキュラムとなるよう努めている。 | |

**課題・今後の方向性**

☑ 改善　☐ 他事業と統合　☐ その他

説明

・有害鳥獣捕獲入門講座受講者へのアンケート調査の結果、仕事などで多忙であることが捕獲チームに参加できない理由として多かったことから、わなの管理や見回り手間が軽減されるICT等新技術を活用した研修を強化する。
・事業主旨が有害鳥獣捕獲の担い手確保であることを踏まえて再検討した結果、アウトカム指標は有害鳥獣捕獲担い手集合研修の受講者数及び有害鳥獣捕獲班員育成者数とし、アウトプット指標は事業で行う研修の実施回数とする。
・狩猟者の育成を射撃場が担う一方で、当事業では有害鳥獣捕獲のリーダーやスキルを持つ者を育成することにより、有害鳥獣捕獲班員の組織力の強化などに取り組む。

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | シカ丸ごと１頭活用大作戦 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 自然鳥獣共生課 |
| | | 担当班 | 被害対策班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3463 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 平成27年度 | 終了年度 | ー | 関連計画等 | 兵庫県環境基本計画 |
| 事業区分 | ☑ 国補助事業　☐ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | ☐ 直執行　☑ 委　託　☑ 補　助　☐ その他(　　) | | | 実施主体等 | 市町協議会等 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 捕獲したシカを地域資源として利用拡大を図るため、シカ肉処理加工施設整備や捕獲したシカの搬入促進支援、シカ肉利用の普及啓発を実施 |
| 事業概要 | ①捕獲したシカの処理加工施設等の整備支援、狩猟者が捕獲したシカを処理加工施設等へ搬入する経費を支援<br>②シカ肉のPRや販売流通業者とのマッチングを支援するため「ひょうごニホンジカ推進ネットワーク」へ負担金を支出 |
| これまでの改善状況 | 令和３年度　処理加工施設への搬入促進のためクラウド管理システムの活用を試行<br>令和４年度　システム導入施設を増やして運用 |
| 業務フロー | 市町要望に基づき、国に交付申請。県がとりまとめて、実績に基づき精算（補助）<br>業務設計書作成→一般競争入札→事業実施→実績取りまとめ→精算（委託）<br>団体に負担金を支出して、事業を執行（負担金） |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 37,879 千円 | 33,635 千円 | 37,791 千円 | 139,257 千円 |
| 経費内訳 | | 報酬・賃金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 委託料 | 26,627 千円 | 24,870 千円 | 29,150 千円 | 38,000 千円 |
| | | 補助金・交付金 | 11,252 千円 | 8,765 千円 | 8,641 千円 | 94,018 千円 |
| | | 貸付金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | その他 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 7,239 千円 |
| （財源内訳） | | (国庫) | (26,627千円) | (24,870千円) | (29,150千円) | (113,000千円) |
| | | (特定) | (550千円) | (550千円) | (550千円) | (550千円) |
| | | (起債) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (一般財源) | (10,702千円) | (8,215千円) | (8,091千円) | (25,707千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 172,612 千円 | 170,316 千円 | 139,257 千円 | 139,257 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | 21.9% | 19.7% | 27.1% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 0.3人 | 従事人員 0.3人 | 従事人員 0.3人 | 従事人員 0.3人 |
| | | | 2,469 千円 | 2,478 千円 | 2,537 千円 | 2,617 千円 |
| 職員給与費 | | a | 2,131 千円 | 2,141 千円 | 2,147 千円 | 2,280 千円 |
| 賞与引当金繰入額 | | b | 172 千円 | 175 千円 | 240 千円 | 175 千円 |
| 退職手当引当金繰入額 | | c | 166 千円 | 162 千円 | 150 千円 | 162 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 40,348 千円 | 36,113 千円 | 40,328 千円 | 141,874 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①） | 目標 | 163,689 | 160,676 | 157,663 | 154,650 | 151,637 |
| | シカによる農林業被害額<br>※目標値未満を達成目標とする。<br>（兵庫県環境基本計画の環境指標） | 実績（見込） | 203,806 | 157,167 | 167,030 | (154,650) | 【R7年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (0.2 千円) | (0.2 千円) | (0.2 千円) | (0.9 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 124.5% | 97.8% | 105.9% | (100.0%) | |
| | 成果指標（アウトカム指標②） | 目標 | ― | ― | ― | ― | ― |
| | ― | 実績（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | | (単位当たりコスト) | ― | ― | ― | ― | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | 成果指標（アウトカム指標③） | 目標 | ― | ― | ― | ― | ― |
| | ― | 実績（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | | (単位当たりコスト) | ― | ― | ― | ― | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | 活動指標（アウトプット指標①） | 目標 | 9,000 | 10,000 | 10,000 | 12,000 | 12,000 |
| | シカ処理加工頭数<br>（地域創生戦略事業進捗指標（事業KPI）） | 実績（見込） | 12,918 | 12,615 | 13,975 | (12,000) | 【毎年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (3.1 千円) | (2.9 千円) | (2.9 千円) | (11.8 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 144% | 126% | 140% | (100.0%) | |
| | 活動指標（アウトプット指標②） | 目標 | ― | ― | ― | ― | ― |
| | ― | 実績（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | | (単位当たりコスト) | ― | ― | ― | ― | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | 活動指標（アウトプット指標③） | 目標 | ― | ― | ― | ― | ― |
| | ― | 実績（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | | (単位当たりコスト) | ― | ― | ― | ― | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| 標 | 終期設定 | 有（　　）・ | | | | 無 | |
| | 改善基準 | ― | | | | | |

| 自己評価 | 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|---|
| | ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | シカ処理加工頭数が順調に推移しており、捕獲したシカの地域資源としての利活用につながっている。 | 処理頭数の目標は達成しているが、自然の生き物であり、生息頭数や気候（雪の降雪量等）により捕獲数が変動することもあり、安定的な供給が難しい面もあることから、県下の各施設において、処理能力を超えた際に別施設への融通などの連携を強化していくとともに、施設整備を推進していく。 |
| | ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | ICTによる捕獲情報管理システムを導入し、処理加工施設・狩猟者の負担を軽減することで処理頭数増加に寄与するとともに、狩猟期捕獲拡大事業とも連携して捕獲頭数の増加につながる取り組みを実施している。 | |

**課題・今後の方向性**

☑ 改善　　☐ 他事業と統合　　☐ その他

説明

処理加工施設搬入促進事業（委託）の中で、施設側の意見を取り入れ、施設側の負担軽減を実現すると共に、ひょうごニホンジカ推進ネットワークと協力してジビエの普及啓発・販売網を強化し、処理頭数及び処理加工施設への搬入率の更なる増加を目指す。

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | 指定管理鳥獣捕獲等事業 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 自然鳥獣共生課 |
| | | 担当班 | 鳥獣保護管理班・被害対策班 |
| | | 連絡先 | 078-362-9084 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 平成28年度 | 終了年度 | 令和７年度 | 関連計画等 | 兵庫県環境基本計画 |
| 事業区分 | ☑ 国補助事業　☐ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | ☐ 直執行　☑ 委　託　☐ 補　助　☐ その他(　　) | | | 実施主体等 | 県 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 生息数が多く農林業に多大な被害を与える指定管理鳥獣（シカ・イノシシ）の生息密度を低減するため、高標高地域等の捕獲圧が低い地域で、県が委託により捕獲を実施<br>また、ICT等を活用した大型捕獲オリなど効果的な捕獲手法等の開発・効果検証を実施 |
| 事業概要 | シカ・イノシシの追跡等調査及び捕獲、ICT等新技術を活用したﾓﾃﾞﾙ的な捕獲や新たな捕獲手法の技術開発、県境を跨ぐ広域的な捕獲計画に基づき、近接県と連携した捕獲の実施 |
| これまでの改善状況 | 令和３年度から効果的な捕獲を促進するため、ICT等新技術を活用したモデル的な捕獲の検証等を実施するとともに、令和4年度から捕獲圧の低い県境を跨ぐ高標高地域での捕獲を推進している。 |
| 業務フロー | 業務設計書作成（県）→一般競争入札→事業実施（受託者）→実績取りまとめ→精算 |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 34,000 千円 | 44,000 千円 | 43,390 千円 | 44,000 千円 |
| 経費内訳 | 報酬・賃金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 委託料 | | 33,835 千円 | 43,946 千円 | 43,390 千円 | 44,000 千円 |
| | 補助金・交付金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 貸付金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | その他 | | 165 千円 | 54 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| （財源内訳） | (国庫) | | (24,500千円) | (34,500千円) | (33,871千円) | (34,500千円) |
| | (特定) | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | (起債) | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | (一般財源) | | (9,500千円) | (9,500千円) | (9,519千円) | (9,500千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 34,000 千円 | 44,000 千円 | 54,000 千円 | 44,000 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | 100.0% | 100.0% | 80.4% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 0.4人 | 従事人員 0.4人 | 従事人員 0.4人 | 従事人員 0.4人 |
| | | | 3,291 千円 | 3,305 千円 | 3,382 千円 | 3,490 千円 |
| | 職員給与費 | a | 2,841 千円 | 2,855 千円 | 2,862 千円 | 3,040 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 229 千円 | 234 千円 | 320 千円 | 234 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 221 千円 | 216 千円 | 200 千円 | 216 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 37,291 千円 | 47,305 千円 | 46,772 千円 | 47,490 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 指標 | 成果指標（アウトカム指標①）<br>シカ目撃効率<br>※目標値未満を達成目標とする。 | 目標 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| | | 実績（見込） | 1.68 | 1.47 | 1.00 | (1.00) | 【R7年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (22,197 千円) | (32,180 千円) | (46,772 千円) | (47,490 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 59.5% | 68.0% | 100.0% | (100.0%) | |
| | 成果指標（アウトカム指標②）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 成果指標（アウトカム指標③）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標①）<br>シカ・イノシシの有害捕獲目標<br>シカ：23,500頭<br>イノシシ：15,000頭<br>（環境基本計画指標の内数） | 目標 | 38,500 | 38,500 | 38,500 | 38,500 | 38,500頭 |
| | | 実績（見込） | 34,976 | 31,398 | 30,918 | (38,500) | 【毎年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (1 千円) | (2 千円) | (2 千円) | (1 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 90.8% | 81.6% | 80.3% | (100.0%) | |
| | 活動指標（アウトプット指標②）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標③）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 終期設定 | (有)（令和７年度） ・ 無 | | | | | |
| | 改善基準 | シカ・イノシシの有害捕獲頭数が38,500頭を下回った場合 | | | | | |

| 自己評価 | 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|---|
| | ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | 狩猟者が立ち入ることの少ない高標高地域等での捕獲であり、民間での実施が困難であることから、シカ等の捕獲圧を高めることに非常に有効である。 | 広域捕獲は、狩猟者が立ち入ることが少なく、シカの密度が増加している鳥取県境の高標高地域で実施しており、引き続き当該地域の個体数管理のため、捕獲の強化を図っていく。 |
| | ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | 業務は国の認定制度である鳥獣の捕獲に必要な技能及び知識を有する法人等に限定して委託しており、効率的な捕獲を実施している。<br>また、国庫定額補助事業に積極的に取り組んでおり、一般財源の80%が特別交付税措置されている。 | |

**課題・今後の方向性**

☐ 改善　☐ 他事業と統合　☑ その他

説明

引き続き国庫定額補助事業に積極的に取り組むとともに、国に対して、事業費上限の拡大等を求めていく。
また、県境区域については、隣接府県との情報共有を図り、連携して効果的な捕獲を実施する。

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | ツキノワグマ被害対策事業 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 自然鳥獣共生課 |
| | | 担当班 | 被害対策班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3463 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 平成11年度 | 終了年度 | ー | 関連計画等 | 第２期ツキノワグマ管理計画 |
| 事業区分 | ☐ 国補助事業　☑ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | ☑ 直執行　☐ 委　託　☑ 補　助　☐ その他(　　) | | | 実施主体等 | 県 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 県内のツキノワグマは保護施策により絶滅の危機を脱したと考えられるが、個体数の増加に伴い、集落への出没増が懸念されている。クマの個体数管理と被害対策を推進するため、出没個体の有害捕獲の強化並びに錯誤捕獲された個体の放獣、近隣府県と連携した広域管理指針の策定等を実施 |
| 事業概要 | ツキノワグマの生息数推定など保護管理施策推進のため、狩猟等により捕獲された個体のモニタリング・GPS調査、出没が増加している集落周辺の安全確保のため有害捕獲の強化、錯誤捕獲個体の安全な放獣、近畿北部・東中国ツキノワグマ広域保護管理協議会への負担金の支出 |
| これまでの改善状況 | 近畿北部・東中国ツキノワグマ広域保護管理協議会による各個体群の個体数推定の実施、GPS首輪装着によるツキノワグマの行動域の把握やツキノワグマのモニタリングを実施。 |
| 業務フロー | 業務設計書作成（県）→一般競争入札→事業実施（受託者）→実績取りまとめ→精算 |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 11,161 千円 | 11,161 千円 | 12,241 千円 | 10,190 千円 |
| 経費内訳 | | 報酬・賃金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 委託料 | 9,794 千円 | 5,380 千円 | 5,295 千円 | 3,900 千円 |
| | | 補助金・交付金 | 500 千円 | 500 千円 | 500 千円 | 500 千円 |
| | | 貸付金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | その他 | 867 千円 | 5,281 千円 | 6,446 千円 | 5,790 千円 |
| （財源内訳） | | (国庫) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (特定) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (起債) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (一般財源) | (11,161千円) | (11,161千円) | (12,241千円) | (10,190千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 11,161 千円 | 11,161 千円 | 10,190 千円 | 10,190 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | 100.0% | 100.0% | 120.1% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 0.5人 | 従事人員 0.5人 | 従事人員 0.5人 | 従事人員 0.5人 |
| | | | 4,113 千円 | 4,129 千円 | 4,228 千円 | 4,361 千円 |
| | 職員給与費 | a | 3,551 千円 | 3,568 千円 | 3,578 千円 | 3,800 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 286 千円 | 292 千円 | 400 千円 | 292 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 276 千円 | 269 千円 | 250 千円 | 269 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 15,274 千円 | 15,290 千円 | 16,469 千円 | 14,551 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①）<br>ツキノワグマ出没情報件数<br>※ 目標値未満を達成目標とする。<br>《目標値》<br>豊作年：400件、並作年：750件<br>凶作年：800件 | 目標 | 750 | 750 | 800 | 750 | 400～800 |
| | | 実績（見込） | 589 | 509 | 524 | (500) | 【毎年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (26 千円) | (30 千円) | (31 千円) | (29 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 127.3% | 147.3% | 65.5% | (66.7%) | |
| | 成果指標（アウトカム指標②）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 成果指標（アウトカム指標③）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| 指標 | 活動指標（アウトプット指標①）<br>ツキノワグマによる人身被害件数<br>※ 目標値に向け低減させることを達成目標とする。 | 目標 | 0件 | 0件 | 0件 | 0件 | 0件 |
| | | 実績（見込） | 2件 | 0件 | 0件 | (0) | 【毎年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (7,637 千円) | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | 0.0% | 100.0% | 100.0% | (100.0%) | |
| | 活動指標（アウトプット指標②）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標③）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 終期設定 | 有（　　）・ (無) | | | | | |
| | 改善基準 | － | | | | | |

| 自己評価 | 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|---|
| | ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | ツキノワグマの推定生息数中央値はここ数年は各個体群とも800頭程度、また生息分布域は拡大傾向にある。出没地域の体制整備も進みつつあり、人身事故発生件数はR1：2件、R2：2件、R3：2件と横ばいであったが、R4、R5年度は0件であり、目標を達成している。 | 人身被害の発生ゼロ件を継続できるよう、出没情報の共有システムの確立や、居住地域への出没対応の強化を関係機関と連携して実施する。 |
| | ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | 令和３年に「近畿北部・東中国ツキノワグマ広域保護管理指針」が策定され、関係府県による捕獲データやモニタリングデータの共有と、各個体群の個体数推定が開始され、科学的データに基づいたツキノワグマの管理が実施されるようになった。 | |

**課題・今後の方向性**

☑ 改善　　☐ 他事業と統合　　☐ その他

説明

ツキノワグマ管理計画に基づき個体数管理を継続する。あわせて、人の居住地域への出没時に早期に対応できるような体制整備を図っていく。

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | 捕獲専門家チームによる有害捕獲強化事業 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 自然鳥獣共生課 |
| | | 担当班 | 被害対策班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3463 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 平成30年度 | 終了年度 | ー | 関連計画等 | 兵庫県環境基本計画 |
| 事業区分 | ☑ 国補助事業　☐ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | ☑ 直執行　☐ 委　託　☐ 補　助　☐ その他(　　) | | | 実施主体等 | 県 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 有害捕獲従事者の減少等で、市町で有害捕獲が対応困難な地域において、市町の要請により、県が編成した捕獲専門家チームを派遣し、捕獲活動を実施する。 |
| 事業概要 | 県が自衛隊や警察のOB等も活用した捕獲チーム（10人程度）を編成し、県が有害捕獲を実施。 |
| これまでの改善状況 | 令和２年度より地元猟友会支部に協力を要請するための事務費を計上し、専門家チームが現地で円滑な活動ができるようにした。 |
| 業務フロー | 市町が県に要請し、県が登録済の捕獲チームを市町へ派遣。 |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 757 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 20,757 千円 |
| 経費内訳 | | 報酬・賃金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 委託料 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 補助金・交付金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 貸付金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | その他 | 757 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 20,757 千円 |
| （財源内訳） | | (国庫) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (10,200千円) |
| | | (特定) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (9,800千円) |
| | | (起債) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (一般財源) | (757千円) | (0千円) | (0千円) | (757千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 34,412 千円 | 20,757 千円 | 20,757 千円 | 20,757 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | 2.2% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 0.7人 | 従事人員 0.7人 | 従事人員 0.7人 | 従事人員 0.7人 |
| | | | 5,759 千円 | 5,782 千円 | 5,919 千円 | 6,106 千円 |
| | 職員給与費 | a | 4,972 千円 | 4,996 千円 | 5,009 千円 | 5,320 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 401 千円 | 409 千円 | 560 千円 | 409 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 386 千円 | 377 千円 | 350 千円 | 377 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 6,516 千円 | 5,782 千円 | 5,919 千円 | 26,863 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①） | 目標 | 163,689千円 | 160,676千円 | 157,663千円 | 154,650千円 | 151,637千円 |
| | シカによる農林業被害額<br>※目標値未満を達成目標とする。<br>（環境基本計画　計画指標の内数） | 実績（見込） | 203,806千円 | 157,167千円 | 167,030千円 | (154,650) | 【R7年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (0 千円) | (0 千円) | (0 千円) | (0 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 80.3% | 102.2% | 105.9% | (100.0%) | |
| | 成果指標（アウトカム指標②） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 成果指標（アウトカム指標③） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標①） | 目標 | 1,000 | 500 | 500 | 500 | 500頭 |
| | 捕獲専門家チームによる捕獲頭数 | 実績（見込） | 0 | 0 | 0 | (500) | 【毎年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (0 千円) | (0 千円) | (0 千円) | (54 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 0.0% | 0.0% | 0.0% | (100.0%) | |
| | 活動指標（アウトプット指標②） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標③） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| 目標 | 終期設定 | 有（　　）・ (無) | | | | | |
| | 改善基準 | 捕獲専門家チームによる捕獲頭数が目標を大幅に下回る状況が3カ年続く場合 | | | | | |

## 自己評価

| 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|
| ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | 銃猟は一般的に10人～のチームで行うが、狩猟者の高齢化・減少に伴い銃猟の継続が困難な地域では、他地域の狩猟者に捕獲を進めて欲しいという要望がある。一方で地元猟友会と市町間で他地域の狩猟者にどこまでを依頼するか（捕獲場所、捕獲期間等）の調整が進んでいないため、事業実施に向けた合意形成に時間を要している。 | 現状、地元猟友会支部が捕獲する場所や期間と他地域の狩猟者が捕獲する場所や期間の整理に難航している市町が多く、要望が上がってきていない。<br>地元猟友会支部員にも現地の案内等の役割を担ってもらうことで、棲み分けと共同での取組理解を深め、事業実施を推進しているところであるが、市町への派遣実績がない状況が続いている。 |
| ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | ・国庫事業や市町からの負担金を活用している。<br>・専門家チームによる捕獲を実施することで、効果的かつ効率的な活動となるように留意している。 | |

## 課題・今後の方向性

☑ 改善　　☐ 他事業と統合　　☐ その他

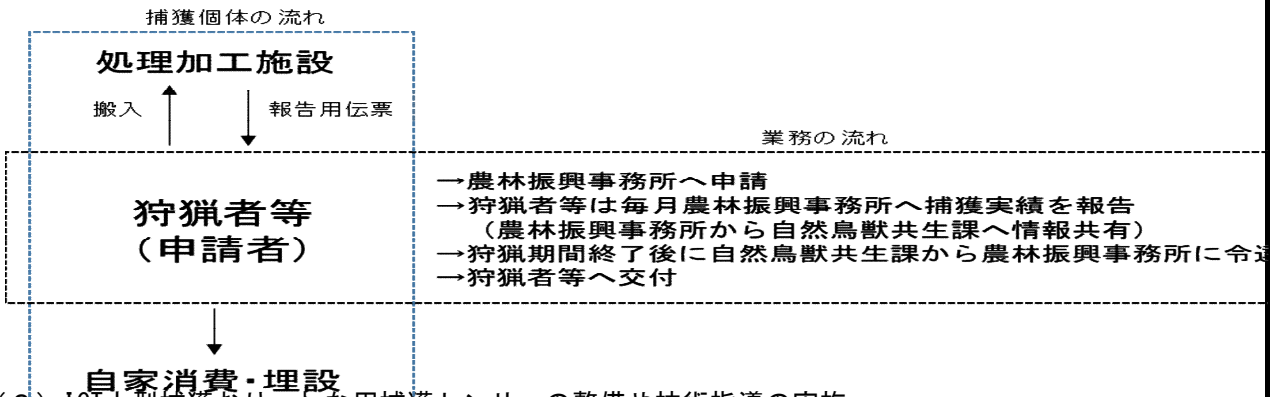
説明

市町・猟友会を交えた説明会等を実施し、事業の有効活用につなげていく。
なお、改善基準に該当することから、廃止も含めて事業のあり方を検討する。

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | 狩猟期イノシシ捕獲拡大事業 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 自然鳥獣共生課 |
| | | 担当班 | 被害対策班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3463 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 平成30年度 | 終了年度 | ー | 関連計画等 | 第３期イノシシ管理計画 |
| 事業区分 | ☑ 国補助事業　☐ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | ☑ 直執行　☐ 委　託　☐ 補　助　☐ その他(　　) | | | 実施主体等 | 県 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | イノシシによる農業被害の軽減のため、狩猟期におけるイノシシの捕獲に対して報償金を支給し、捕獲拡大を図る。<br>目標捕獲頭数：25,000頭／年<br>※一般有害：15,000頭　狩猟期：10,000頭（うち狩猟期イノシシ捕獲拡大事業：7,000頭／年） |
| 事業概要 | （１）捕獲報償金の支給<br>ア　処理加工施設への搬入あり　国庫10/10<br>イ　処理加工施設への搬入なし　県1/10 市町1/10 特交8/10<br>（２）ICT大型捕獲おり、わな用捕獲センサーの整備や技術指導の実施 |
| これまでの改善状況 | 農業者の捕獲意欲を高めるため、令和元年度よりICTワナ等の対応整備や技術指導を進めており、狩猟者に加えて農業者にワナ免許所持者が増加し、捕獲頭数の増加につながっている。 |
| 業務フロー | （１）捕獲報償金の支給<br>  <br><br>（２）ICT大型捕獲おり、わな用捕獲センサーの整備や技術指導の実施<br>申請（狩猟者等）→受付（県・市町）→貸与交付（県・市町）→（狩猟者等） |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 17,002 千円 | 21,147 千円 | 17,767 千円 | 34,515 千円 |
| | 経費内訳 | 報酬・賃金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 委託料 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 補助金・交付金 | 2,561 千円 | 0 千円 | 1,660 千円 | 6,115 千円 |
| | | 貸付金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | その他 | 14,441 千円 | 21,147 千円 | 16,107 千円 | 28,400 千円 |
| | （財源内訳） | (国庫) | (14,441千円) | (6,041千円) | (4,443千円) | (3,200千円) |
| | | (特定) | (0千円) | (15,106千円) | (9,744千円) | (25,200千円) |
| | | (起債) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (一般財源) | (2,561千円) | (0千円) | (3,580千円) | (6,115千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 41,335 千円 | 41,779 千円 | 34,645 千円 | 34,515 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | 41.1% | 50.6% | 51.3% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 0.7人 | 従事人員 0.7人 | 従事人員 0.7人 | 従事人員 0.7人 |
| | | | 5,759 千円 | 5,782 千円 | 5,919 千円 | 6,106 千円 |
| | 職員給与費 | a | 4,972 千円 | 4,996 千円 | 5,009 千円 | 5,320 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 401 千円 | 409 千円 | 560 千円 | 409 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 386 千円 | 377 千円 | 350 千円 | 377 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 22,761 千円 | 26,929 千円 | 23,686 千円 | 40,621 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 成果指標（アウトカム指標①） | イノシシによる農林業被害額 | 目標 | 176,501 | 170,324 | 164,363 | 158,610 | 141,793円【R8年度】 |
| | | 実績（見込） | 218,035 | 155,596 | 101,215 | (158,610) | |
| | | (単位当たりコスト) | (0.1 千円) | (0.2 千円) | (0.2 千円) | (0.3 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 81.0% | 109.5% | 162.4% | 100.0% | |
| 成果指標（アウトカム指標②） | 狩猟期イノシシ捕獲拡大事業における捕獲頭数 | 目標 | 4,000 | 4,000 | 4,000 | 4,000 | 7,000頭【R8年度】 |
| | | 実績（見込） | 3,556 | 2,147 | 2,148 | (4,000) | |
| | | (単位当たりコスト) | (6 千円) | (13 千円) | (11 千円) | (10 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 88.9% | 53.7% | 53.7% | (100.0%) | |
| 成果指標（アウトカム指標③） | ― | 目標 | ― | ― | ― | ― | ― |
| | | 実績（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | | (単位当たりコスト) | ― | ― | ― | ― | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| 活動指標（アウトプット指標①） | 狩猟期イノシシ捕獲拡大事業の申請者数 | 目標 | ― | ― | 135 | 600 | 1,000人【R8年度】 |
| | | 実績（見込） | 141 | 111 | 157 | (600) | |
| | | (単位当たりコスト) | (161 千円) | (243 千円) | (151 千円) | (68 千円) | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | 116.3% | (100.0%) | |
| 活動指標（アウトプット指標②） | ― | 目標 | ― | ― | ― | ― | ― |
| | | 実績（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | | (単位当たりコスト) | ― | ― | ― | ― | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| 活動指標（アウトプット指標③） | ― | 目標 | ― | ― | ― | ― | ― |
| | | 実績（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | | (単位当たりコスト) | ― | ― | ― | ― | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| 終期設定 | | 有（　　）・ (無) | | | | | |
| 改善基準 | | ― | | | | | |

## 自己評価

| 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|
| ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | 令和3年度に県内で豚熱が発生したことによるイノシシの商品価値低下に伴い、狩猟者等の捕獲意欲に減退がみられる。また、捕獲報償金の一部については、淡路地域のみで事業実施されており、活用が低調である。 | 豚熱の影響によりイノシシの生息数が減少したため、捕獲頭数の目標値は達成できていないものの、農林業被害額は大幅に減少している。<br>引き続き、豚熱による商品価値低下の中においても、狩猟者等の捕獲意欲を高めるための手法を検討するなど、イノシシの更なる捕獲拡大を図る。 |
| ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | 農業者の捕獲意欲を高めるため、ICTワナ等の対応整備や技術指導を進めており、イノシシによる農業被害対策の必要性について理解の向上に努めている。 | |

## 評価

課題・今後の方向性

☑ 改善　☐ 他事業と統合　☐ その他

説明

狩猟者等の捕獲意欲を高めるための手法を検討し、イノシシの更なる捕獲拡大を図る。
・豚熱感染確認区域においても安全にジビエを活用できる手法
・全県で実施可能な狩猟者等の捕獲意欲を高めるための支援

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | 鳥獣被害集落自立サポート事業 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 自然鳥獣共生課 |
| | | 担当班 | 被害対策班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3463 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 令和４年度 | 終了年度 | 令和８年度 | 関連計画等 | ― |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業区分 | ☑ 国補助事業　☐ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | ☑ 直執行　☐ 委　託　☑ 補　助　☐ その他(　　) | 実施主体等 | (1)市町<br>(2)県 | | |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 被害状況と効果的な被害対策等を明記したカルテ、処方箋の策定を支援し、それらに基づいて、現地アドバイザーが現地で指導等を実施する。その上で、集落が自立した被害対策に取り組むために集落全体を取りまとめる役割を担う「集落リーダー」を養成し、対象集落の獣害対策を促進し農林業被害の軽減を図る。 |
| 事業概要 | 地域主体の鳥獣害対策について、「取り組みたい」とする約220集落を対象に、被害カルテ、処方箋の策定、環境整備等を支援する。<br>また、これまでにストップ・ザ・獣害事業（H27～R3）を採択した約50集落を対象に実践支援を実施する。 |
| これまでの改善状況 | 令和４年度は33の集落、令和５年度は34集落で現地アドバイザーによる指導を実施している。<br>ワナの設置指導により加害個体の捕獲に成功している集落がある。 |
| 業務フロー | （１）カルテ、処方箋の策定・環境整備支援<br>計画提出（市町）→受付・審査（県）→事業実施・実績報告（市町）→交付（県）<br>（２）対策の実践支援<br>実施希望集落・アドバイザー推薦（市町）→実施集落決定（県庁）・アドバイザー任命（農林）→事業実施・実績報告（アドバイザー→農林→県庁）→交付（農林） |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 0 千円 | 18,913 千円 | 26,323 千円 | 28,775 千円 |
| 経費内訳 | 報酬・賃金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 委託料 | | 0 千円 | 8,069 千円 | 11,043 千円 | 12,000 千円 |
| | 補助金・交付金 | | 0 千円 | 5,487 千円 | 5,884 千円 | 4,375 千円 |
| | 貸付金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | その他 | | 0 千円 | 5,357 千円 | 9,396 千円 | 12,400 千円 |
| （財源内訳） | (国庫) | | (0千円) | (13,426千円) | (21,618千円) | (24,400千円) |
| | (特定) | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | (起債) | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | (一般財源) | | (0千円) | (5,487千円) | (4,705千円) | (4,375千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 0 千円 | 34,400 千円 | 32,900 千円 | 28,775 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | ― | 55.0% | 80.0% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 0.0人 | 従事人員 0.7人 | 従事人員 0.7人 | 従事人員 0.7人 |
| | | | 0 千円 | 5,782 千円 | 5,919 千円 | 6,106 千円 |
| | 職員給与費 | a | 0 千円 | 4,996 千円 | 5,009 千円 | 5,320 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 0 千円 | 409 千円 | 560 千円 | 409 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 0 千円 | 377 千円 | 350 千円 | 377 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 0 千円 | 24,695 千円 | 32,242 千円 | 34,881 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①） | 目標 | － | 23% | 45% | 69% | 100% |
| | 農林業被害軽減集落数割合<br>被害状況が（事業前）「深刻・大きい」→（事業後）「軽減・小さい」に変更した集落を集計 | 実績（見込） | － | 43% | 80% | (69%) | 【R8年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | － | (57,430 千円) | (40,303 千円) | (50,552 千円) | |
| | | 達成率（見込） | － | 187% | 178% | 100% | |
| | 成果指標（アウトカム指標②） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 成果指標（アウトカム指標③） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標①） | 目標 | － | 50集落 | 100集落 | 150集落 | 220集落 |
| | 支援実施集落数（累積） | 実績（見込） | － | 95集落 | 178集落 | (150集落) | 【R8年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | － | (260 千円) | (181 千円) | (233 千円) | |
| | | 達成率（見込） | － | 190% | 178% | 100% | |
| | 活動指標（アウトプット指標②） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標③） | 目標 | － | － | － | － | － |
| | － | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| 標 | 終期設定 | (有)（令和８年度）・無 | | | | | |
| | 改善基準 | ２年連続で成果指標目標の1/3を下回る場合、見直し・廃止を検討 | | | | | |

| 自己評価 | 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|---|
| | ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | 集落ごとに毎年鳥獣害アンケートを実施し被害状況を調査しているため、適切に県民ニーズを把握することができている。<br>実施集落では現地アドバイザーを中心に集落をあげた獣害対策が行われており、農林業被害現象を実現している | 集落からの被害対策への早期の取り組み要望が多くあり、現地アドバイザーの確保や集落への指導に取組んだ結果、目標を上回る支援実施集落数を達成できている。<br>引き続き集落に対して事業PRを行い活用を促進する。 |
| | ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | カルテの策定や環境整備については、事業費の50%に特別交付税が措置されている。<br>獣害対策GISの整備により、委託実施する場合の人件費や作業日数の削減が図られてきており、事業開始年度よりも１集落あたりの指導に係るコストが抑えられている。 | |

**課題・今後の方向性**

☑ 改善　☐ 他事業と統合　☐ その他

説明

引き続き事業活用により対象集落での農林水産業被害軽減に努めていく。
鳥獣害アンケートの結果から獣害が深刻な集落をリストアップし、事業PR等の進捗管理を行い目標達成を図る。

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | 地域創生！再エネ発掘プロジェクト | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 環境政策課 |
| | | 担当班 | 温暖化対策班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3273 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 平成29年度 | 終了年度 | ー | 関連計画等 | 兵庫県地球温暖化対策推進計画（R4.3改定） |
| 事業区分 | ☐ 国補助事業　☑ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | ☐ 直執行　☐ 委　託　☑ 補　助　☐ その他（　　） | | | 実施主体等 | 県、（公財）ひょうご環境創造協会 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 地域資源を新たなエネルギー源として活用し、バランスのとれた再生可能エネルギーの普及を目指すため、再生可能エネルギーの導入を検討する地域団体等の事業立ち上げ時の取組、及び設備導入を支援し、地域主導による再エネの普及を促進する。 |
| 事業概要 | （１）再生可能エネルギー補助事業<br>小水力発電や小規模バイオマス発電・熱供給、小型風力発電、太陽光発電（全県的なモデルとなり得る）等の県内に設置の進んでいない再エネの導入に取り組む地域団体等への補助<br>①立ち上げ時取組支援事業<br>・補助対象：勉強会、現地調査、先進地視察等・補助上限額：300千円（定額）<br>②基本調査等補助事業<br>・補助対象：事業性評価のために必要な調査等・補助限度額：5,000千円（補助率1/2）<br>（２）設備導入無利子貸付事業<br>新たに再エネ設備を導入する地域団体等に対し、設備導入に必要な経費の一部を無利子貸付により支援<br>・対象：ア 小水力発電、小規模ﾊﾞｲｵﾏｽ発電・熱供給、小型風力発電等の太陽光以外の再エネ発電事業の設備<br>イ 全県モデルとなり得る先進的な太陽光発電<br>・期間：20年（固定価格買取制度適用期間）以内<br>・限度額：ア 50,000千円/件、イ 30,000千円/件・貸付利息：無利子<br>（３）審査会の開催<br>（１）、（２）の採択団体を決定するため、学識経験者や再エネの専門家等を含めた審査会を開催<br>（４）再エネ導入に取組む地域団体、支援事業者の発掘<br>再エネ導入に取組む地域団体や地域を支援する事業者等の発掘とマッチングを目的に、優良事例集の作成と事例発表会を開催<br>①優良事例集の作成、周知（関係課、各県民局、市町、事業者等に配布）<br>②再エネを導入した地域団体による優良事例及び、事業者による地域との連携事例等の発表会開催（１回） |
| これまでの改善状況 | 令和３年度の改善<br>・対象団体の拡充：市町と連携して地域活性化を推進する事業者を追加<br>・対象設備の拡充：バイオマスによる熱供給を追加<br>・無利子貸付金額の上限引き上げ<br>令和６年度の改善<br>令和５年度事業改善レビューにおける「導入に至った良い事例を横展開すべき」という意見を受け、優良事例集の作成及び事例発表会を開催 |
| 業務フロー | 補助事業：申請（地域団体等）→受付・審査（県）→交付（県）→（地域団体等）<br>貸付事業：申請（地域団体等）→受付・審査（県）→貸付（ひょうご環境創造協会）→（地域団体等） |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 5,115 千円 | 4,092 千円 | 291 千円 | 4,613 千円 |
| | 経費内訳 | 報酬・賃金 | 119 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 159 千円 |
| | | 委託料 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 補助金・交付金 | 4,997 千円 | 4,092 千円 | 291 千円 | 4,410 千円 |
| | | 貸付金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | その他 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 44 千円 |
| | 財源内訳 | (国庫) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (特定) | (5,115千円) | (0千円) | (0千円) | (203千円) |
| | | (起債) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (一般財源) | (0千円) | (4,900千円) | (291千円) | (4,410千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 5,835 千円 | 4,900 千円 | 4,410 千円 | 4,613 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | 87.7% | 83.5% | 6.6% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 1.0人 | 従事人員 1.0人 | 従事人員 1.0人 | 従事人員 1.0人 |
| | | | 8,225 千円 | 8,619 千円 | 8,456 千円 | 8,710 千円 |
| | 職員給与費 | a | 7,102 千円 | 7,510 千円 | 7,156 千円 | 7,589 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 572 千円 | 580 千円 | 800 千円 | 583 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 551 千円 | 529 千円 | 500 千円 | 538 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 13,340 千円 | 12,711 千円 | 8,747 千円 | 13,323 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①） | 目標 | 55 | 60 | 65 | 70 | 100 |
| | 再生可能エネルギーの発電量（億kWh）<br>第５次兵庫県環境基本計画に基づく目標値および兵庫県地球温暖化対策推進計画に基づく目標値 | 実績（見込） | 49 | 50 | (65) | (70) | 【R12年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (272 千円) | (254 千円) | (135 千円) | (190 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 89.1% | 83.3% | (100.0%) | (100.0%) | |
| | 成果指標（アウトカム指標②） | 目標 | ― | ― | 11 | 12 | 1 |
| | 支援した再エネ導入計画の事業化件数（累積） | 実績（見込） | 10 | 11 | 11 | (12) | 【毎年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (1,334 千円) | (1,156 千円) | (795 千円) | (1,110 千円) | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | 100.0% | (100.0%) | |
| | 活動指標（アウトプット指標①） | 目標 | 10 | 10 | 7 | 7 | 7 |
| | 地域団体等が再エネ導入に向けて取り組みを進めた件数<br>（地域創生！再エネ発掘プロジェクト事業支援総件数）<br>（地域創生戦略事業進捗指標(事業KPI)） | 実績（見込） | 3 | 4 | 1 | (7) | 【毎年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (4,237 千円) | (2,187 千円) | (8,747 千円) | (1,903 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 30.0% | 40.0% | 14.3% | (100.0%) | |
| | 活動指標（アウトプット指標②） | 目標 | ― | ― | ― | ― | ― |
| | ― | 実績（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | | (単位当たりコスト) | ― | ― | ― | ― | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | 終期設定 | 有（　　）・ 無 | | | | | |
| | 改善基準 | 年間支援件数が1件以下となった場合見直し | | | | | |

## 自己評価

| 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|
| ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | 前身の事業から延べ50地域に対し62件の支援を行ってきたところ、再エネの導入実現に到った地域は11地域に留まっている。（太陽光発電：９件、小水力発電：２件）<br>なお、令和５年度は支援件数が１件と低調であった。 | 県内の再生可能エネルギー発電量の約７割を占める太陽光発電は、発電量の変動や適地減少、買取価格の引き下げ等により導入ペースの鈍化が予想されるなどの課題がある。引き続き、再エネ発電量の更なる増加に向け、地域団体等の再エネ導入の取組を支援することで、地域主導による小水力発電や小規模バイオマス発電、小型風力発電等の導入を促進し、太陽光発電に偏らないバランスのとれた再エネの普及と地域資源を活用した地域づくりを目指す。<br>前身の事業から約10年間事業を実施しており、地域団体へ一通り支援してきたことから、支援件数が低調となっていることを踏まえ、優良事例集の作成や事例発表会を実施し、再エネ導入団体及び支援事業者の掘り起こしを図る。 |
| ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | ・地域団体等のニーズに合わせて、対象事業や対象団体等の見直しを行っている。<br>・審査委員会を設置し、外部有識者によるヒアリング審査で取組内容や団体内容を評価し、一定基準を満たす事業を採択するなど、効果的な取組に対して支援できるスキームを構築している。 | |

## 課題・今後の方向性

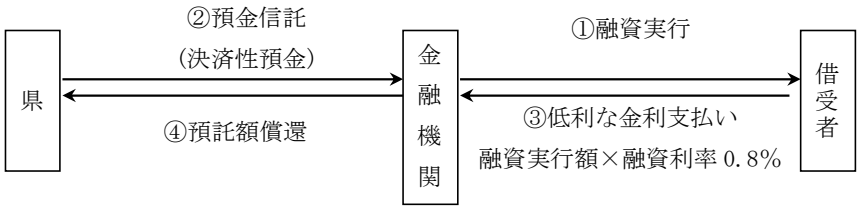
☑ 改善　　☐ 他事業と統合　　☐ その他

説明：申請件数や事業化件数が少ないことから、優良事例集の作成や地域団体及び事業者による優良事例の発表会開催により、再エネ導入に取組む地域団体や地域を支援する事業者の発掘、マッチングに取り組む。

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | 住宅用創エネルギー・省エネルギー設備設置特別融資事業 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 環境政策課 |
| | | 担当班 | 温暖化対策班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3284 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 平成23年度 | 終了年度 | ー | 関連計画等 | 兵庫県地球温暖化対策推進計画（R4.3改定） |

| | |
|---|---|
| 事業区分 | □ 国補助事業　☑ 県単独事業 |
| 実施方法 | □ 直執行　□ 委　託　□ 補　助　☑ その他（　預託　）　実施主体等　県 |
| 事業目的 | 融資制度を利用して自ら居住する住宅に創エネルギー・省エネルギー設備を導入する者に対して、金利負担を軽減することにより、設備の一層の普及を図る。 |
| 事業概要 | 県内の自ら居住する住宅に創エネルギー・省エネルギー設備を設置する者で、１年以内にうちエコ診断を受診した者を対象に、金融機関において融資（融資枠：３億円）を実行し、県から融資実行のあった金融機関に預託を行う。 |
| これまでの改善状況 | H25年度：融資上限額を引き上げ（200万円→500万円）<br>H26年度：融資下限額を設定（50万円～）、対象設備を追加（家庭用太陽熱利用設備、内窓・複層ガラス、高効率給油器）、要件にうちエコ診断受診を追加<br>H29年度：融資利率を引き下げ（1.0%→0.8%）、対象設備を追加（断熱化工事（外壁、屋根、天井、床、高断熱浴槽）、省エネ化工事（冷暖房設備等））<br>H30年度：対象設備を追加（電気自動車充給電設備（V2H））<br>R6年度　：対象設備を追加（開口部の断熱化工事（内窓・複層ガラス、外窓交換、ドア交換）） |
| 業務フロー |  |



| 事業に要するコスト | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 385,391 千円 | 296,357 千円 | 244,554 千円 | 385,778 千円 |
| | 経費内訳 | 報酬・賃金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 委託料 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 補助金・交付金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 貸付金 | 385,391 千円 | 296,357 千円 | 244,554 千円 | 385,778 千円 |
| | | その他 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | （財源内訳） | （国庫） | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | （特定） | (385,391千円) | (296,357千円) | (244,554千円) | (385,778千円) |
| | | （起債） | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | （一般財源） | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 3,260,341 千円 | 470,443 千円 | 405,400 千円 | 385,778 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | 11.8% | 63.0% | 60.3% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 1.7人 | 従事人員 1.7人 | 従事人員 1.7人 | 従事人員 1.7人 |
| | | | 13,982 千円 | 14,037 千円 | 14,375 千円 | 14,824 千円 |
| | 職員給与費 | a | 12,073 千円 | 12,131 千円 | 12,165 千円 | 12,918 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 972 千円 | 991 千円 | 1,360 千円 | 991 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 937 千円 | 915 千円 | 850 千円 | 915 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 399,373 千円 | 310,394 千円 | 258,929 千円 | 400,602 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①）<br>家庭部門の温室効果ガス排出量削減率(%)(2013年度比)第５次兵庫県環境基本計画に基づく目標値（「兵庫県地球温暖化対策推進計画」(R4.3改定)に基づき見直した目標値）<br>※実績は３年後の年度末に出るため見込みとする。 | 目標 | 28.7 | 32.2 | 35.8 | 39.4 | 60.9 |
| | | 実績（見込） | 31.3 | (32.2) | (35.8) | (39.4) | 【R12年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (12,760 千円) | (9,640 千円) | (7,233 千円) | (10,168 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 109.1% | (100.0%) | (100.0%) | (100.0%) | |
| | 成果指標（アウトカム指標②）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標①）<br>スマートライフ設備導入支援件数(住宅用創エネ・省エネ融資、家庭用創エネ・省エネ・蓄エネ設備補助の件数合計)<br>（地域創生戦略事業進捗指標(事業KPI)） | 目標 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 |
| | | 実績（見込） | 238 | 206 | 207 | (500) | 【毎年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (1,678 千円) | (1,507 千円) | (1,251 千円) | (801 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 47.6% | 41.2% | 41.4% | (100.0%) | |
| | 活動指標（アウトプット指標②）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 終期設定 | 有（　　）・ 無 | | | | | |
| | 改善基準 | 融資件数の減少傾向が続く場合、対象設備を見直すなど状況に応じて改善策を講じる | | | | | |

## 自己評価

| 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|
| ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | 融資件数は、R3年度16件、R4年度31件、R5年度28件、R6.7末現在８件の申し込みがあった。<br>実績は低調であるが、温室効果ガスの削減に向け、家庭部門の対策が重要であることから、創エネ・省エネ・蓄エネ設備の導入に係る費用の負担を大幅に軽減し、導入を促進する低利融資制度が引き続き必要である。 | 対象設備の拡充や融資利率の引き下げ等、改善に取り組んでいるが、新規貸付件数は減少傾向にあり、制度の更なる周知が必要である。 |
| ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | R3年度予算額では事業コストが高かったが、R4年度から実績に合わせて融資枠（46億円→３億円）を引き下げ、適正なコスト設定となっている。 | |

## 課題・今後の方向性

☑ 改善　　☐ 他事業と統合　　☐ その他

説明

住宅情報誌への掲載や各種会議の機会を捉えての広報、講習会でのチラシ配布等、制度のさらなる認知度向上に努めるとともに、必要に応じて対象設備の見直しを検討する。

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | 水素ステーション整備促進事業 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 水大気課 |
| | | 担当班 | 大気班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3285 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 平成30年度 | 終了年度 | ー | 関連計画等 | 兵庫県地球温暖化対策推進計画（R4.3改定） |
| 事業区分 | □ 国補助事業　☑ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | □ 直執行　☑ 委　託　☑ 補　助　□ その他（　　） | | | 実施主体等 | 県 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 脱炭素社会の実現に向け、令和４年３月に改定した「兵庫県地球温暖化対策推進計画」では、温室効果ガス削減目標や再生可能エネルギー導入目標を強化した。目標達成のため、FCVの普及に必要不可欠な水素ステーションの整備を促す補助等を行う。 |
| 事業概要 | ①地域(阪神･播磨･淡路)毎に、民間事業者等と水素ステーション整備に向けた具体的な事業化を検討し、その結果をインフラ事業者に共有することで、整備の働きかけを行う。<br>②民間事業者等に対し、水素ステーション整備費の補助を行う。 |
| これまでの改善状況 | R4：小規模水素ステーション（パッケージ型水素供給設備）の設置に要する経費を補助対象に追加<br>R5：地域特性に応じた水素ステーションの整備方策を検討 |
| 業務フロー | ①水素ステーション整備促進事業<br>県【委託】→受託者<br><br>②水素ステーションの整備に対する補助事業<br>申請（事業者）→受付・審査（県）→交付（県） |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 42,647 千円 | 93,830 千円 | 11,972 千円 | 82,821 千円 |
| | 経費内訳 | 報酬・賃金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 委託料 | 0 千円 | 0 千円 | 4,499 千円 | 7,821 千円 |
| | | 補助金・交付金 | 42,647 千円 | 93,830 千円 | 6,959 千円 | 75,000 千円 |
| | | 貸付金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | その他 | 0 千円 | 0 千円 | 514 千円 | 0 千円 |
| | （財源内訳） | (国庫) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (特定) | (42,647千円) | (88,288千円) | (5,013千円) | (70,321千円) |
| | | (起債) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (一般財源) | (0千円) | (5,542千円) | (6,959千円) | (12,500千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 107,884 千円 | 119,104 千円 | 81,013 千円 | 82,821 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | 39.5% | 78.8% | 14.8% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 1.4人 | 従事人員 1.4人 | 従事人員 0.3人 | 従事人員 0.3人 |
| | | | 11,513 千円 | 12,066 千円 | 2,537 千円 | 2,617 千円 |
| | 職員給与費 | a | 9,942 千円 | 10,514 千円 | 2,147 千円 | 2,280 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 800 千円 | 812 千円 | 240 千円 | 175 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 771 千円 | 740 千円 | 150 千円 | 162 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 54,160 千円 | 105,896 千円 | 14,509 千円 | 85,438 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①）<br>温室効果ガス排出量削減率（%）（2013年度比）<br>第５次兵庫県環境基本計画に基づく目標値（「兵庫県地球温暖化対策推進計画」（R4.3改定）に基づき見直した目標値）<br>※実績は3年後の年度末に出るため見込とする | 目標 | 22.6 | 25.4 | 28.2 | 31.1 | 48.0 |
| | | 実績（見込） | 19.4 | (25.4) | (28.2) | (31.1) | 【R12年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | (2,792 千円) | (4,169 千円) | (514 千円) | (2,747 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 85.8% | 100.0% | (100.0%) | (100.0%) | |
| | 成果指標（アウトカム指標②）<br>― | 目標 | ― | ― | ― | ― | ― |
| | | 実績（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | | (単位当たりコスト) | ― | ― | ― | ― | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | 成果指標（アウトカム指標③）<br>― | 目標 | ― | ― | ― | ― | ― |
| | | 実績（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | | (単位当たりコスト) | ― | ― | ― | ― | |
| | | 達成率（見込） | ― | ― | ― | ― | |
| | 活動指標（アウトプット指標①）<br>年度毎の水素ステーション立地数（兵庫県燃料電池モビリティ普及促進ビジョン） | 目標 | 1 | 2 | 3 | 3 | 20 |
| | | 実績（見込） | 0 | 1 | 1 | (3) | 【R12年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | ― | (105,896 千円) | (14,509 千円) | (28,479 千円) | |
| | | 達成率（見込） | 0.0% | 50.0% | 33.3% | (100.0%) | |
| | 終期設定 | 有（　　）・ 無 | | | | | |
| | 改善基準 | 事業者のニーズや地域特性に応じて対象設備や補助率を見直すなど、状況に応じて改善策を講じる。 | | | | | |

## 自己評価

| 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|
| ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | 水素ステーション整備費は、国において2025年２億円と目標値が設定されている（水素･燃料電池戦略ロードマップ）が、現状は4.5億円と高止まりしているため、地域毎の具体的な事業化の検討及び補助事業を継続実施することで事業者の整備促進を図っている。<br>補助実績は横ばいで推移しており、同補助制度は地球温暖化対策推進計画の目標達成等に向けた有効な制度であり、今後も需要が見込まれる。 | 補助実績は横ばいで推移しており、同補助制度は地球温暖化対策推進計画の目標達成等に向けた有効な制度であり、県内の温室効果ガス排出量は着実に減少傾向を辿っていることから、今後も国の動向及び事業者のニーズ等に応じて、充実した支援を実施する。 |
| ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | ・小規模水素ステーション（パッケージ型水素供給設備）の設置に要する経費を補助対象に追加<br>・事業者によるステーション整備を適確かつ効率的に促進するため、阪神・播磨・淡路の３地域で地域連絡会を開催し、地域特性に応じたステーションの整備方策を検討 | |

## 課題・今後の方向性

☐ 改善　☐ 他事業と統合　☑ その他

説明

国が商用車対応の大規模ステーションの整備に注力していることから、国の動向も注視しつつ、事業者のニーズや地域特性を踏まえ、必要に応じて補助事業の見直しを検討するなど、継続して事業を実施

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | PPA方式等による太陽光発電設備導入補助事業 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 環境政策課 |
| | | 担当班 | 温暖化対策班 |
| | | 連絡先 | 078-362-3273 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 令和５年度 | 終了年度 | 令和７年度 | 関連計画等 | 兵庫県地球温暖化対策推進計画（R4.3改定） |
| 事業区分 | ☐ 国補助事業　☑ 県単独事業 | | | | |
| 実施方法 | ☑ 直執行　☐ 委　託　☐ 補　助　☐ その他(　　) | | | 実施主体等 | 県 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 本県では、PPA方式での太陽光発電設備の導入について、県有施設等でのモデル事業実施等で再エネ供給事業者・需要家のマッチング支援の仕組づくり等に取り組み、企業にも拡大を図ろうとしている。<br>その流れを加速させるため、事業者のPPA方式等による太陽光発電設備の導入に対して支援する。 |
| 事業概要 | PPA方式等により太陽光発電設備を県内の中小事業所に設置するPPA事業者に対して、補助を行う。<br>当該事例を広く発信し、脱炭素化の取り組みの底上げにつなげる。 |
| これまでの改善状況 | ○令和６年度<br>令和５年度では国のｽﾄﾚｰｼﾞﾊﾟﾘﾃｨ補助金の「採択」を必須条件としていたが、国補助金の申請・採択状況及び事業者ヒアリング等をふまえ、補助要件を緩和 |
| 業務フロー | 申請（事業者）→受付・審査（県）→交付（県） |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 15,000 千円 |
| 経費内訳 | 報酬・賃金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 委託料 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 補助金・交付金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 15,000 千円 |
| | 貸付金 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | その他 | | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| （財源内訳） | (国庫) | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | (特定) | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (15,000千円) |
| | (起債) | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | (一般財源) | | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 0 千円 | 0 千円 | 15,000 千円 | 15,000 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | － | － | 0.0% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 0.0人 | 従事人員 0.0人 | 従事人員 0.2人 | 従事人員 0.2人 |
| | | | 0 千円 | 0 千円 | 1,691 千円 | 1,744 千円 |
| | 職員給与費 | a | 0 千円 | 0 千円 | 1,431 千円 | 1,520 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 0 千円 | 0 千円 | 160 千円 | 117 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 0 千円 | 0 千円 | 100 千円 | 108 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 0 千円 | 0 千円 | 1,691 千円 | 16,744 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 成果指標（アウトカム指標①） | 県内の非住宅用太陽光発電量(太陽光発電設備のうち10kW以上のもの)の増加を目指す(億kWh)<br>第５次兵庫県環境基本計画に基づく目標値および兵庫県地球温暖化対策推進計画に基づく目標値 | 目標 | － | － | 34.1 | 36.8 | 53.1 |
| | | 実績（見込） | － | － | (34.1) | (36.8) | 【R12年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | (100.0%) | (100.0%) | |
| 成果指標（アウトカム指標②） | － | 目標 | － | － | － | － | |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| 活動指標（アウトプット指標①） | 補助件数（件） | 目標 | － | － | 3 | 3 | 9 |
| | | 実績（見込） | － | － | 0 | (3) | 【R7年度】 |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | (5,581 千円) | |
| | | 達成率（見込） | － | － | 0.0% | (100.0%) | |
| 活動指標（アウトプット指標②） | － | 目標 | － | － | － | － | |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| 終期設定 | | (有)（令和７年度）　・　無 | | | | | |
| 改善基準 | | 国補助金の申請・採択状況や補助事業の申請状況に応じて事業見直し | | | | | |

## 自己評価

| 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|
| ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | 令和５年度は国のｽﾄﾚｰｼﾞﾊﾟﾘﾃｨ補助金への上乗せを補助金交付の要件としていたが、ｽﾄﾚｰｼﾞﾊﾟﾘﾃｨ補助金の採択事業のうち、県内中小事業所実績はなかった。<br>令和６年度からは、国補助金の申請・採択状況及び事業者ヒアリング等をふまえ、補助要件を緩和した。 | 令和５年度は実績が出ていないが、県内事業者ヒアリング等により補助制度を見直すことにより、目標の達成を目指す。 |
| ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | 国のｽﾄﾚｰｼﾞﾊﾟﾘﾃｨ補助金と連携することで、最小限のコストで必要な支援額を確保し、県内再エネ設備導入拡大を図っている。 | |

## 課題・今後の方向性

☐ 改善　☐ 他事業と統合　☑ その他

説明　兵庫サステナブル基金の補助期間３年により令和７年度で終了予定

# 事務事業評価調書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事　業　名 | GHG排出量算定サービス導入補助事業 | 部(局) | 環境部 |
| | | 所管課 | 環境政策課 |
| | | 担当班 | 温暖化対策班 |
| | | 連絡先 | 078-362-9093 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開始年度 | 令和５年度 | 終了年度 | 令和７年度 | 関連計画等 | 兵庫県地球温暖化対策推進計画（R4.3改定） |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業区分 | ☐ 国補助事業 | ☑ 県単独事業 | | | |
| 実施方法 | ☐ 直執行 | ☐ 委　託 | ☑ 補　助 | ☐ その他(　　) | 実施主体等 県 |

| | |
|---|---|
| 事業目的 | 事業者の温室効果ガス削減の取組を促進するためには、排出量の実態把握が必須であるが、温暖化対策が経済活動にも直結しつつある中、カーボンプライシングやLCA（ライフサイクルアセスメント）等を念頭にいれた製品等の製造、サービスの提供を進めるためにも、サプライチェーンを通じて排出される温室効果ガス排出量の把握及び連携が重要である。<br>事業活動によって排出される温室効果ガスを把握できるサービスの導入支援を行い、サプライチェーンも意識した脱炭素化の取組及び経済活動の活性化を図る。 |
| 事業概要 | 温室効果ガスのサプライチェーン排出量（スコープ３）の把握やシュミレート等、事業者の温室効果ガス排出量の把握並びに削減に資するシステムの導入費用について、兵庫県の中小規模事業者に対し補助を行う。 |
| これまでの改善状況 | ○令和６年度<br>・県内中小事業者の脱炭素経営を伴走支援する「ひょうご脱炭素経営スクール」と連携し、算定サービスの普及啓発を行う。<br>・県内商工会議所や金融機関と連携し、中小規模事業者へ普及啓発を行い、県内事業者の算定サービス導入促進を図る。 |
| 業務フロー | 県【補助】→（公財）ひょうご環境創造協会【補助】→事業者 |

事業に要するコスト

| 区分 | | | ３年度決算額 | ４年度決算額 | ５年度決算額 | ６年度当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費① | | | 0 千円 | 0 千円 | 2,640 千円 | 22,691 千円 |
| 経費内訳 | | 報酬・賃金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 委託料 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | 補助金・交付金 | 0 千円 | 0 千円 | 2,457 千円 | 22,691 千円 |
| | | 貸付金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | | その他 | 0 千円 | 0 千円 | 183 千円 | 0 千円 |
| （財源内訳） | | (国庫) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (特定) | (0千円) | (0千円) | (2,640千円) | (22,691千円) |
| | | (起債) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| | | (一般財源) | (0千円) | (0千円) | (0千円) | (0千円) |
| 予算額②<br>※精算補正前の予算を記載 | | | 0 千円 | 0 千円 | 22,691 千円 | 22,691 千円 |
| 執行率（（①/②）×100） | | | － | － | 11.6% | 100.0% |
| 人件費③（a＋b＋c） | | | 従事人員 0.0人<br>0 千円 | 従事人員 0.0人<br>0 千円 | 従事人員 0.3人<br>2,586 千円 | 従事人員 0.3人<br>2,616 千円 |
| | 職員給与費 | a | 0 千円 | 0 千円 | 2,147 千円 | 2,280 千円 |
| | 賞与引当金繰入額 | b | 0 千円 | 0 千円 | 240 千円 | 175 千円 |
| | 退職手当引当金繰入額 | c | 0 千円 | 0 千円 | 150 千円 | 161 千円 |
| 総コスト（①＋③） | | | 0 千円 | 0 千円 | 5,226 千円 | 25,307 千円 |

# 事務事業評価調書

| 評価指標 | 指標名 | 区分 | ３年度実績 | ４年度実績 | ５年度実績 | ６年度目標 | 最終目標【年度】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 成果指標（アウトカム指標①）<br>本事業の補助金を活用しGHG排出量算定サービスを導入した企業の内、排出量削減に積極的に取り組む必要があると認識した企業の割合（%） | 目標 | － | － | 80 | 80 | 80【R7年度】 |
| | | 実績（見込） | － | － | 0 | (80) | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | (316 千円) | |
| | | 達成率（見込） | － | － | 0.0% | (100.0%) | |
| | 成果指標（アウトカム指標②）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 活動指標（アウトプット指標①）<br>補助実績（件） | 目標 | － | － | 165 | 165 | 500【R7年度】 |
| | | 実績（見込） | － | － | 0 | (165) | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | (153 千円) | |
| | | 達成率（見込） | － | － | 0.0% | (100.0%) | |
| | 活動指標（アウトプット指標②）<br>－ | 目標 | － | － | － | － | － |
| | | 実績（見込） | － | － | － | － | |
| | | (単位当たりコスト) | － | － | － | － | |
| | | 達成率（見込） | － | － | － | － | |
| | 終期設定 | (有)（令和７年度）・無 | | | | | |
| | 改善基準 | 補助金の申請状況に応じて事業内容を見直し | | | | | |

| 自己評価 | 評価の視点 | 評価 | 目標に対する達成状況（総合的評価） |
|---|---|---|---|
| | ○有効性（評価指標に対する実績）<br>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か<br>・民間での事業実施は見込めない事業か<br>・指標・目標設定は適切か<br>・活動実績は十分か<br>・想定された成果を達成しているか　など | 対象となる事業者へのチラシ配布やセミナーでの周知など、広報は実施しているものの、補助金実績にはつながっていない。<br>令和６年度においては、普及啓発の強化を行い、県内の事業者におけるGHG算定サービスの利用促進を図る。 | 本事業においては、算定サービス提供事業者及び対象事業者から情報収集を行い、算定サービスの普及を図っているが、令和５年度は中小企業において脱炭素経営に対する理解が低く、またScope3算定についてハードルが高く感じていたことなどの理由から、取組みが進んでおらず、補助金の実績につながっていない。<br>令和６年度においては、脱炭素経営スクールによる理解促進、県や団体等と連携した企業向けセミナーでの情報提供を実施する。また、自社の取引先に向けた脱炭素経営勉強会を始めている大手事業者もあり、今後、中小企業が脱炭素経営に取り組む必要性が高まり、申請件数の増加が見込まれる。 |
| | ○効率性（最小のコストで最大の効果）<br>・業務改革に取り組んでいるか<br>・コスト削減の工夫を行っているか<br>・ICTや民間活力は活用しているか<br>・受益者負担は適正か<br>・財源確保の工夫は行っているか　など | コスト削減、効率的な業務運営のため、補助事業の事務主体である公益財団法人ひょうご環境創造協会の職員を課内に配置し、連携を密にして事業を実施している。 | |

**課題・今後の方向性**

☐ 改善　☐ 他事業と統合　☑ その他

説明　兵庫サステナブル基金の補助期間３年により令和７年度で終了予定